

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

理学療法学科 1 年次

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 心理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 城下 未来 (長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師) | | | | | | |
| | (実務経験：有) 公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスなどでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえて、対人援助場面において必要な心理学の知識について講義を行う。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 城下 未来 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。 心理学的な見方を身につけ、援助の対象となる人の心理や行動を理解する糸口を見つけられるようになることをねらいとする。 |
| 授業の到達目標 | 1. 心理学の成り立ちや心の基本的な仕組み及び働きを理解することができる 2. 人間の様々な活動に心の動きが影響を与えていることを理解できる 3. 自身の心の状態を把握し、日常生活の中で心をコントロールすることができる |

| 授業計画 | | |
|------|------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 心理学概説 | 城下 |
| 第2回 | 心理学の歴史、研究法 | 城下 |
| 第3回 | 感覚と知覚① | 城下 |
| 第4回 | 感覚と知覚② | 城下 |
| 第5回 | 記憶① | 城下 |
| 第6回 | 記憶② | 城下 |
| 第7回 | 思考 | 城下 |
| 第8回 | 感情・動機づけ | 城下 |
| 第9回 | 学習① | 城下 |
| 第10回 | 学習② | 城下 |
| 第11回 | コミュニケーション① | 城下 |
| 第12回 | コミュニケーション② | 城下 |
| 第13回 | 社会と集団① | 城下 |
| 第14回 | 社会と集団② | 城下 |
| 第15回 | まとめ | 城下 |
| | | |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他(%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 学習内容が多いため、各自で復習しながら取り組んでくれることを望みます。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-------------------------|
| 教科書 | 系統看護学講座 基礎分野 心理学 (医学書院) |
| 参考書 | 適宜紹介します |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 日本語表現法 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 古市 寛 | | | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) ・代表弁護士として法律事務所に所属。刑事民事問わず、様々な裁判実務を担当。 ・言語の専門家として、自らの言葉の効果を考え、発することが出来るように指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 古市 寛 (大村綜合法律事務所 弁護士) | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 1. 職業倫理について考える。 2. 言葉の持つ力について考える。 3. 職業倫理を実践するための言葉を考える。 |
| 授業の到達目標 | 社会人及び職業人として活躍する自分を想像し、自分が発すべき「言葉」を考えることにより、職業倫理を実践するための言葉を発する素養を身につける。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|------|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 本講座の概説 | 古市 寛 |
| 第2回 | 職業倫理について① | 〃 |
| 第3回 | 職業倫理について② | 〃 |
| 第4回 | 言葉の持つ力について① | 〃 |
| 第5回 | 言葉の持つ力について② | 〃 |
| 第6回 | 言葉の持つ力について③ | 〃 |
| 第7回 | 職業倫理を実践する言葉について① | 〃 |
| 第8回 | 職業倫理を実践する言葉について② | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (40%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 予習、復習は要りません。講義の中で考えて下さい。 |
| 履修条件 | 想像力 |
| 教科書 | 関係資料配布 |
| 参考書 | 特になし |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 人間関係論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 藤内 聖子 (活水女子大学 看護学部看護学科) | | | | |
| | (実務経験：有) 大学病院および国立病院機構にて看護師として20年の経験あり。臨床現場での実習指導にて学生指導の実施経験を積み、チーム医療として多職種と連携もある。看護教育では基礎看護学を中心に講義・演習を担当している。本科目では、医療職に求められる態度やコミュニケーションなど人間関係構築の必要性を学生に伝えたい。 | | | | |
| 科目担当者 | 藤内 聖子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 医療従事者は、対象者・家族・多職種との直接的なやり取りを中心に、対象者らへより良い医療とは何かを考え医療提供を行う。その際に医療従事者として高いコミュニケーション能力が求められる。そのため、本講義では人間関係構築に必要とされるコミュニケーション能力について学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1. 人間関係とは何か説明できる。 2. コミュニケーションを学ぶ必要性を説明できる。 3. コミュニケーションの技法を用いて、実践することができる。 4. リフレクションとは何か説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 授業ガイダンス 人間関係とは何か | 藤内 |
| 第2回 | 自己理解・他者理解 コミュニケーションの種類 <小テスト①> | 藤内 |
| 第3回 | コミュニケーションの種類と方法 <小テスト②> | 藤内 |
| 第4回 | 医療従事者に必要なコミュニケーション <小テスト③> | 藤内 |
| 第5回 | 自己概念 チーム医療 <小テスト④> | 藤内 |
| 第6回 | リフレクションとは何か <レポート①提出 ISBAR> 講義・演習：事例を用いたコミュニケーション プロセスレコードとロールプレイ | 藤内 |
| 第7回 | リフレクションとは何か <小テスト⑤> 講義・演習：事例を用いたコミュニケーション プロセスレコードとロールプレイ | 藤内 |
| 第8回 | 社会人としてのコミュニケーション まとめ <レポート②提出> | 藤内 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他(GW) (60%) (%) (%) (25%) (10%) (5%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 受講した講義内容を復習し、次の講義に臨むこと。 第1回目に小テスト、レポートについて説明を行う。 |
| 履修条件 | 許可した場合を除き、スマートフォンはマナーモードにしておく。 |

| | |
|-----|-------------------------|
| 教科書 | 配布資料 |
| 参考書 | PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 文化人類学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 畠山 均 (所属 長崎純心大学人文学部 名誉教授) (実務経験:有) 民間企業や教員対象の異文化コミュニケーション研修において講師として多数の経験を有す。グローバル化時代に社会人として生活していく上で必要な異文化理解能力が身につくよう指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 畠山 均 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | <p>文化人類学は主として自分が生まれ育った文化とは異なる他の文化を様々な視点から研究し、自分の文化と比較する事を通して自らの文化を客観的かつ相対的に見る視点を与えてくれる。その意味で文化人類学とは自分を理解するための学問である。</p> <p>この講義ではこれまでの文化人類学の研究成果を踏まえ、現代世界において他の文化を理解する事の重要性について考えていく。具体例として日本語と英語のコミュニケーションの違いを論じていく。</p> |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本社会の多文化状況を理解し、説明できる。 2. 「見える文化」と「見えない文化」の違いを理解し、「見えない文化」を理解する事の重要性を説明できる。 3. コミュニケーションと価値観との関係を理解し、説明できる。 4. ステレオタイプが文化背景を異にする他者を理解する上でどのように影響しているかを理解し、具体的事例について説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | (1) オリエンテーション、(2) 多文化化する現代日本社会の現状 | 畠山 |
| 第2回 | 偏見とステレオタイプー日本人のイスラム教徒の理解を例として、小テスト1 | 畠山 |
| 第3回 | 文化を考える視点 (1)ー高等文化と一般文化 | 畠山 |
| 第4回 | 文化を考える視点 (2)ー見える文化と見えない文化、小テスト2 | 畠山 |
| 第5回 | 価値観とコミュニケーション (1) | 畠山 |
| 第6回 | 価値観とコミュニケーション (2)、小テスト3 | 畠山 |
| 第7回 | 価値観とコミュニケーション (3) | 畠山 |
| 第8回 | 価値観とコミュニケーション (4)、小テスト4 | 畠山 |

| | |
|-------------------|--|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 (グループディスカッションレポート) |
| (評価の基準) | (50%) (%) (%) (25%) (%) (25%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義だけではなく、動画視聴、グループディスカッションを頻繁に取り入れる。特に <u>グループディスカッションレポートは成績評価において大きな割合を占めるのでグループディスカッションには積極的に参加し、グループレポートを作成すること。</u> |
| 履修条件 | なし |

| | |
|-----|---------------------------|
| 教科書 | 欧米人が沈黙するとき (直塚玲子著), 大修館書店 |
| 参考書 | 授業中に指示する |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 生物学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 久保 惣二郎 (所属 元青雲高等学校 教諭) | | | | |
| | (実務経験：無) 高等学校にて化学・生物学を指導した経験を活かして、講義を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 久保 惣二郎 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 専門科目の基礎となる人体の構成、機能と調節、代謝、ヒトの遺伝などについて基礎知識を学習する。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞のはたらき、組織・器官の役割を理解する。 2. エネルギーの移動に注目して、代謝のしくみを理解する。 3. 恒常性の維持と外部環境との関わりを理解する。 4. 生殖と発生、遺伝について理解する。 5. 受容器と効果器の構造とはたらきについて理解する。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 生物の分類、細胞のはたらき | 久保 |
| 第2回 | 光合成のしくみ、呼吸のしくみ | 久保 |
| 第3回 | エネルギー交代、内部環境 | 久保 |
| 第4回 | 遺伝子とDNA、生物の生殖法 | 久保 |
| 第5回 | 遺伝法則、様々な遺伝現象 | 久保 |
| 第6回 | 動物の発生のしくみ | 久保 |
| 第7回 | 受容器の構造とはたらき | 久保 |
| 第8回 | 効果器の構造とはたらき | 久保 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義資料を繰り返し熟読し、理解するよう努めること。 |
| 履修条件 | 必ず出席すること。積極的な態度で受講すること。 |

| | |
|-----|-----------------|
| 教科書 | 人間のための一般生物学 裳華房 |
| 参考書 | 必要時の授業で紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 物理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | |
| | （実務経験：有）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに物理学を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 理学療法士・作業療法士に必要な力学について講義・演習します |
| 授業の到達目標 | 力学の基礎事項（力・重量・モーメントなど）について理解する 国家試験に出題されるレベルの問題を解けるようになる |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 物理学とは 物理学を学習する理由 力学の基礎事項 | 福田 |
| 第2回 | モーメント・トルク・つり合い | 福田 |
| 第3回 | 圧力 | 福田 |
| 第4回 | 仕事とエネルギー | 福田 |
| 第5回 | てこの原理 | 福田 |
| 第6回 | 生体力学 | 福田 |
| 第7回 | 国家試験演習問題 | 福田 |
| 第8回 | まとめ | 福田 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 特に準備する必要はありませんが、講義中に演習する問題を根本から理解するようにしてください。 講義中に Forms を使って演習問題を行います。接続可能なデバイスを準備してください。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 教科書 | リハベーシック 物理学・臨床応用物理 基礎運動学 |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 統計学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 中道 隆広 (長崎総合科学大学 総合情報学部 総合情報学科 准教授) (実務経験：無) | | | | | | |
| 科目担当者 | 中道 隆広 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | データ処理を行うためには統計手法を用いることが必要である。統計手法を適切に利用するために、前提となる重要な考え方を学びデータ処理を行う前から統計手法を意識できるようにする。 |
| 授業の到達目標 | 統計処理の基本を理解 仮説を検証することができるようになる。 統計的仮説検定を理解し、評価することができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|--------------|-----|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 統計学の基礎知識 | 中道 |
| 第2回 | データのまとめる方法 | 〃 |
| 第3回 | 標本と母集団 | 〃 |
| 第4回 | 分散と標準偏差 | 〃 |
| 第5回 | 正規分布とそのほかの分布 | 〃 |
| 第6回 | 仮説の立て方 | 〃 |
| 第7回 | 統計的仮説検定のしくみ | 〃 |
| 第8回 | 有意差検定の意味 | 〃 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100 %) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 教科書を中心に講義を進め、適所でパワーポイントを使い重要な個所の説明を行います。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------------|
| 教科書 | 健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学 出村慎一、杏林書院 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 保健体育 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 森 日香里 (所属 向陽学園 向陽高校) (実務経験：無) 高校教員としての経験をもとに、学生の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 森 日香里 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。 |
| 授業の到達目標 | 1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。 |

| 授業計画 | | |
|------|---------------------------|----|
| 回数 | 内容 | 担当 |
| 第1回 | オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習 | 森 |
| 第2回 | バレーボール | 森 |
| 第3回 | バレーボール | 森 |
| 第4回 | バレーボール | 森 |
| 第5回 | バスケットボール | 森 |
| 第6回 | バスケットボール | 森 |
| 第7回 | バドミントン | 森 |
| 第8回 | バドミントン | 森 |

【変更後】

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(出席・態度) (%) (%) (%) (%) (%) (100 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---------------------------------------|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 外国語 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | ブリガンティ ジェームズ ジョセフ | | | | |
| | (実務経験：無) 大学において英語の非常勤講師として学生指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | ブリガンティ ジェームズ ジョセフ | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 幅広い視野を養うため医療人(理学療法士・作業療法士)として知っておくべき重要な外国語を学ぶ。外国語の基礎を習得します。 |
| 授業の到達目標 | 外国語の基礎固めに加えて医療で用いる専門用語も学習、理解できるようにします。 |

| 授業計画 | | |
|------|--|--------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | Course Introduction/Writing Sample | JOSEPH |
| 第2回 | Vocabulary Building::Body Parts and Common Requests(verbs) | JOSEPH |
| 第3回 | Review,Common Requests(con't),Body parts,Hospital Items,Bedside Manner | JOSEPH |
| 第4回 | Review,Common Disorders and Symptoms/Pain Words | JOSEPH |
| 第5回 | Review,Quiz Activity, Disorders and Symptoms(con't) | JOSEPH |
| 第6回 | Review,Patient Requests/Activites(con't)Root Words | JOSEPH |
| 第7回 | Review,Bedside Manner Revisited/Review, | JOSEPH |
| 第8回 | Closed Notes Review and Pair/Group Practice,Final Review | JOSEPH |
| 第9回 | Final Quiz Activity,Practical English Usage Practice | JOSEPH |

| | | | | | | |
|--------------------|---|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) | <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) | <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) | <input type="checkbox"/> 小テスト (%) | <input type="checkbox"/> レポート (%) | <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | | | | | | |
| 履修条件 | | | | | | |

| | |
|-----|--------------------|
| 教科書 | 看護英会話入門 第3版 (医学書院) |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | キャリアデザイン | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 西川 眞里 (feels/メディワーク・代表) | | | | |
| | (実務経験: 有・無) 医療、介護、産業保健の各分野で理学療法士としての関わりを深める。多岐にわたる経験を活かし、理学療法士としてのキャリアをイメージし将来を考えるきっかけをつくる。 | | | | |
| 科目担当者 | 富田浩平 (長崎川棚医療センター・PT)、高木治雄 (貞松病院・PT)、中倉裕文 (西諫早病院在宅支援室・PT)、坂枝真一 (Fit LIFE DESIGN・代表取締役)、脇屋光宏 (長崎こども・女性・障害者支援センター・PT)、寄本光洋 (愛野記念病院・PT)、飯野朋彦 (にしきの里・PT) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 専門職としての自覚と使命感を認識してもらうため、実際の臨床現場で活躍する多くの理学療法士から講話をいただき、理学療法士を目指す学生としての基本的な心構えを学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1. 理学療法の対象、治療目的・方法、活動分野を理解し、専門科目と関連できる。 2. 各領域における理学療法士の役割を理解し、自らの将来像をイメージできる。 |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 自分のキャリアをデザインする① | 西川 |
| 第2回 | 自分のキャリアをデザインする② | 西川 |
| 第3回 | 急性期病院における PT の役割① | 富田 |
| 第4回 | 急性期病院における PT の役割② | 富田 |
| 第5回 | 回復期病院における PT の役割① | 高木 |
| 第6回 | 回復期病院における PT の役割② | 高木 |
| 第7回 | 訪問リハビリにおける PT の役割① | 中倉 |
| 第8回 | 訪問リハビリにおける PT の役割② | 中倉 |
| 第9回 | 開業と PT① | 坂枝 |
| 第10回 | 開業と PT② | 坂枝 |
| 第11回 | 小児分野における PT の役割① | 脇屋 |
| 第12回 | 小児分野における PT の役割② | 脇屋 |
| 第13回 | スポーツ分野における PT の役割① | 寄本 |
| 第14回 | スポーツ分野における PT の役割② | 寄本 |
| 第15回 | 地域包括支援における PT の役割① | 飯野 |
| 第16回 | 地域包括支援における PT の役割② | 飯野 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | □定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート □その他 () (0%) (%) (%) (%) (100%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 幅広い理学療法士の職域に触れることで、自らが目指す理学療法士像をさらに探求し、それに向けた短期・中期的な学習計画を立ててください。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------|
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する |
| 参考書 | 理学療法学テキスト I 理学療法学概論 神陵文庫 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 基礎セミナー | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| | （実務経験：○・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに基礎セミナーを学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田健一・他 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 専門学校で学習するべきこと、行動するべきことを自ら実践できるよう、グループワーク等を通して理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | 1. 3年間の行動計画を立て、実践につなげる。 2. クラス内での意見交換や上級生との関わりを通して、自身の目標を明確にする。 3. 専門基礎科目の学習方法を身につける。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------------|------|
| 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | ICT 機器、ツールの設定 | 福田 |
| 2 | カリキュラムの構成・内容 | 福田 |
| 3 | 学習の方法・進め方 | 福田 |
| 4 | クリニカルリーズニング | 福田 |
| 5 | Teams、さくら連絡網、スマコク、モノグサの使用法 | 福田 |
| 6 | 学院生活・実習でのマナー | 福田 |
| 7 | 3年生 OSCE 見学 | 専任講師 |
| 8 | 3年生 OSCE 見学 | 専任講師 |
| 9 | Numbers の基本的な使用① | 福田 |
| 10 | Numbers の基本的な使用② | 福田 |
| 11 | Pages の基本的な使用① | 福田 |
| 12 | Pages の基本的な使用② | 福田 |
| 13 | Keynote の基本的な使用① | 福田 |
| 14 | Keynote の基本的な使用② | 福田 |
| 15 | レポート作成 | 福田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | □定期試験 (%) □実技試験 (%) □実習評価 (%) □小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (100%) □その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | iPad を忘れないように準備してください。 (講義資料の閲覧、レポート作成等で使用するため) |
| 履修条件 | 必ず出席し、積極的に取り組むこと。 |

| | |
|-----|-------------|
| 教科書 | 必要に応じて紹介します |
| 参考書 | 必要に応じて紹介します |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|-----|
| 科目名 | ホスピタリティ論 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前後期 |
| 科目担当責任者 | 田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ) | | | | |
| | (実務経験:有) ホスピタリティ業界での長年の職務経験と、企業や行政での研修経験を活かして指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | 田中 美吉子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | <p>・医療現場におけるホスピタリティの重要性と接遇の基本を学ぶ。 状況が許す限り演習を交え、医療従事者に求められる接遇五原則を実践的に身につけていく。</p> |
| 授業の到達目標 | <p>日常生活や実習先においても、授業で学んだ他者への心配りを強く意識し、自ら考え行動化できるようになること。</p> |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 医療機関における接遇の重要性・医療従事者に求められる接遇とは | 田中 |
| 第2回 | 状況に応じた挨拶、安心感を与える身だしなみ、表情、立居振舞い | 田中 |
| 第3回 | 言葉づかい・敬語づかいの基本、間違えやすい敬語づかい | 田中 |
| 第4回 | 心配りを感じさせる言葉づかいと話し方 (小テスト実施) | 田中 |
| 第5回 | 電話対応の基本・実習前のご挨拶と演習 | 田中 |
| 第6回 | Eメール、FAX、Line、御礼状のマナー | 田中 |
| 第7回 | 患者さんとのコミュニケーション・傾聴の演習 (聴くワーク) | 田中 |
| 第8回 | これまでの総復習 弱点克服 総合試験 | 田中 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実技試験 ()% <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 他者との関わり方 (20%) <input type="checkbox"/> 小テスト ()% <input type="checkbox"/> レポート ()% <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業態度) (30%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 接遇マナーを学ぶ授業であることを踏まえて授業に臨んでください。話を聞く姿勢やクラスメイトとの関わり方も評価の対象です。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---------------|
| 教科書 | なし プリントを配布 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学総論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子／長崎リハビリテーション学院 (実務経験：(有)無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに解剖生理学を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 夕子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--------------------------------------|
| 授業の概要 (主題) | 医学の基礎中の基礎となる解剖生理学を学ぶために必要な基礎知識を習得する。 |
| 授業の到達目標 | 解剖生理学を学ぶための基礎知識について説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 解剖学用語 | 中尾 |
| 第2回 | 人体の区分、人体の腔所 | 中尾 |
| 第3回 | 細胞の種類、組織の種類 | 中尾 |
| 第4回 | 器官と器官系 | 中尾 |
| 第5回 | エネルギー産生 | 中尾 |
| 第6回 | 体液、ホメオスタシス | 中尾 |
| 第7回 | 細胞膜、細胞小器官 | 中尾 |
| 第8回 | 静止電位と活動電位 | 中尾 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義資料はファイリングして何度も見返せるようにしてください。 |
| 履修条件 | 私語は慎みつつ、発言を促された際は積極的にお願いします！ |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第6版) 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 (第6版) 医学書院 からだが見える—人体の構造と機能— |
| 参考書 | 必要に応じて紹介します |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学1 (骨・関節靭帯) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 早井あかね (長崎リハビリテーション学院 専任講師) | | | | | | |
| | (実務経験: <u>有</u> ・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床および研修会参加経験をもとに解剖学について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 早井あかね | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 骨、関節・靭帯の解剖および生理について理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨の構造や発生についての用語、骨の生理学的な働きを覚える。 2. 頭蓋・上肢・体幹および下肢の骨の名称を覚える。 3. 各骨の特徴的な構造、筋肉や靭帯の付着部となる部位を覚える。 4. 骨の連結・関節の構造と機能を覚える。 5. 頭蓋・脊柱・上肢・下肢の連結に関与する各関節・靭帯の名称を覚える。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 骨格総論 | 早井 |
| 第2回 | 骨格各論 (頭蓋) | 〃 |
| 第3回 | 骨格各論 (脊柱・胸郭) | 〃 |
| 第4回 | 骨格各論 (上肢の骨) | 〃 |
| 第5回 | 骨格各論 (上肢の骨) | 〃 |
| 第6回 | 骨格各論 (下肢の骨) | 〃 |
| 第7回 | 骨格各論 (下肢の骨) | 〃 |
| 第8回 | 関節靭帯総論 | 〃 |
| 第9回 | 関節靭帯各論 (頭蓋・脊柱・胸郭) | 〃 |
| 第10回 | 関節靭帯各論 (頭蓋・脊柱・胸郭) | 〃 |
| 第11回 | 関節靭帯各論 (上肢) | 〃 |
| 第12回 | 関節靭帯各論 (上肢) | 〃 |
| 第13回 | 関節靭帯各論 (下肢) | 〃 |
| 第14回 | 関節靭帯各論 (下肢) | 〃 |
| 第15回 | まとめ | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 () (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義には必ず出席し、復習を行うこと。 講義範囲が広い為、質問などは積極的に行い理解を深めること。 骨標本など用いながら講義を進めていくので、丁寧に扱い、よく観察すること。 |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 (医学書院) プロメテウス 解剖学コアアトラス (医学書院) |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに骨格筋の構造・作用について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 タ子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 3 |
| | | | | 時間数 | 45 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 人体の骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用を理解する |
| 授業の到達目標 | 1. 骨格筋に関する用語について理解する。 2. 骨格筋の構造(起始・停止、走行、神経支配など)について理解する。 3. 骨格筋の作用について理解する。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|-----------|----|----|--------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 骨格筋の構造 | 中尾 | 16 | 下肢帯の筋① | 中尾 |
| 2 | 骨格筋の作用 | 中尾 | 17 | 下肢帯の筋② | 中尾 |
| 3 | 骨格筋の神経支配 | 中尾 | 18 | 大腿の筋① | 中尾 |
| 4 | 頭部の筋 | 中尾 | 19 | 大腿の筋② | 中尾 |
| 5 | 頸部の筋 | 中尾 | 20 | 下腿の筋① | 中尾 |
| 6 | 胸部の筋 | 中尾 | 21 | 下腿の筋② | 中尾 |
| 7 | 腹部の筋 | 中尾 | 22 | 足の筋 | 中尾 |
| 8 | 背部の筋 | 中尾 | 23 | まとめ | 中尾 |
| 9 | 上肢帯の筋① | 中尾 | | | |
| 10 | 上肢帯の筋② | 中尾 | | | |
| 11 | 上腕の筋① | 中尾 | | | |
| 12 | 上腕の筋② | 中尾 | | | |
| 13 | 前腕の筋① | 中尾 | | | |
| 14 | 前腕の筋② | 中尾 | | | |
| 15 | 手の筋(手内筋群) | 中尾 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(課題) (10%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | テキストの該当箇所を読んで予習しておいてください。 覚えるべき内容がたくさんあります。コツコツと復習してください。 |
| 履修条件 | 私語は慎むこと、配布資料を忘れず持参すること |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 第6版 (医学書院) |
| 参考書 | からだが見える—人体の構造と機能— (MEDIC MEDIA) 基礎運動学 第7版 (医歯薬出版株式会社) |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学3 (神経・感覚器) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院 専任講師) (実務経験:有) 理学療法士としての臨床経験及び解剖学研修への参加などの経験をもとに指導を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 早井 あかね | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 3 |
| | | 時間数 | 45 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | <ul style="list-style-type: none"> ・身体機能における神経系の構造や働きを学習していきます。特に、神経系の成り立ちの中で「中枢神経系」と「末梢神経系」を区別して理解していきましょう。 ・感覚器系の解剖や働きを理解しましょう。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・神経系の解剖・働きについて覚え、後期から始まる神経内科学の基礎をつくる。 ・感覚器系の解剖・働きについて説明ができる。 ・神経系および感覚器系の解剖学・生理学分野の国家試験の解説を作ることができる。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|------------------|----|----|--------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 神経系総論 | 早井 | 13 | 末梢神経系 (脳神経) | 早井 |
| 2 | 神経系総論 | 〃 | 14 | 末梢神経系 (自律神経) | 〃 |
| 3 | 中枢神経系 (大脳) | 〃 | 15 | 末梢神経系 (自律神経) | 〃 |
| 4 | 中枢神経系 (大脳・間脳) | 〃 | 16 | 末梢神経系 (まとめ) | 〃 |
| 5 | 中枢神経系 (橋・中脳・網様体) | 〃 | 17 | 特殊感覚の神経路 | 〃 |
| 6 | 中枢神経系 (延髄・脊髄) | 〃 | 18 | 反射のしくみ | 〃 |
| 7 | 中枢神経系 (小脳) | 〃 | 19 | 脳波 | 〃 |
| 8 | 中枢神経系 (上行神経路) | 〃 | 20 | 感覚器系 (皮膚・視覚) | 〃 |
| 9 | 中枢神経系 (下行神経路) | 〃 | 21 | 感覚器系 (平衡聴覚器) | 〃 |
| 10 | 末梢神経系 (総論) | 〃 | 22 | 感覚器系 (嗅覚・味覚) | 〃 |
| 11 | 末梢神経系 (脊髄神経) | 〃 | 23 | まとめ | 〃 |
| 12 | 末梢神経系 (脊髄神経) | 〃 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 覚えなければいけない単語がたくさん出てきますが、復習の時間を随時設けますので、1つ1つ理解をしていきましょう。 |
| 履修条件 | |

| | |
|------------|---|
| 教科書 参考書 | 標準理学療法・作業療法 解剖学 第6版 (医学書院) 標準理学療法・作業療法 生理学 第6版 (医学書院) 病気がみえる⑦脳・神経 第2版 (メディックメディア) |
|------------|---|

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学 4 (呼吸・循環器) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに解剖生理学の指導にあたる。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 夕子 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解するうえで不可欠である基礎医学的知識 (呼吸・循環器の構造と機能) について学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 呼吸器・循環器の構造と機能について説明できる |

| 授業計画 | | |
|--------|----------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 血管系、心臓 | 中尾 |
| 第 2 回 | 循環系の分類、動脈系・静脈系 | 中尾 |
| 第 3 回 | 胎生期の循環系、リンパ系 | 中尾 |
| 第 4 回 | 血液の組成と機能 | 中尾 |
| 第 5 回 | 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、血液の拍出と血圧 | 中尾 |
| 第 6 回 | 心周期、前負荷・後負荷と収縮性 | 中尾 |
| 第 7 回 | 心機能曲線、血圧の調節 | 中尾 |
| 第 8 回 | 微小循環と物質交換、静脈還流 | 中尾 |
| 第 9 回 | 臓器循環、リンパ循環 | 中尾 |
| 第 10 回 | 鼻、咽頭、喉頭 | 中尾 |
| 第 11 回 | 気管と気管支、肺、胸膜と縦隔 | 中尾 |
| 第 12 回 | 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞 | 中尾 |
| 第 13 回 | 呼吸運動、呼吸気量 | 中尾 |
| 第 14 回 | ガス交換とガスの運搬、呼吸の調節 | 中尾 |
| 第 15 回 | まとめ | 中尾 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (90%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (課題) (10%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 事前に予習として教科書の該当ページを読んで講義に臨んでください。 |
| 履修条件 | 私語は慎みつつ、発言を促された際は積極的にお願いします! |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第 5 版) 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 (第 6 版) 医学書院 |
| 参考書 | からだが見える/人体の構造と機能 MEDIC MEDIA |

| | | | | | | |
|---------|--|-------|------|------|-----|-----|
| 科目名 | 解剖生理学 5 (内臓諸器官) | | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに解剖生理学の指導にあたる。 | | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 |
| | | | | | | 30 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法の対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解するうえで不可欠である基礎医学的知識 (内臓諸器官の構造と機能) について学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 消化器、内分泌器、泌尿・生殖器の構造と機能について説明できる |

| 授業計画 | | |
|--------|----------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 内臓器官の基本構造 | 橋口 |
| 第 2 回 | 口・咽頭・食道の構造 | 橋口 |
| 第 3 回 | 腹部消化管の構造 | 橋口 |
| 第 4 回 | 腹部消化腺の構造 | 橋口 |
| 第 5 回 | 咀嚼と嚥下 | 橋口 |
| 第 6 回 | 消化と吸収 | 橋口 |
| 第 7 回 | 代謝と体温 | 橋口 |
| 第 8 回 | 泌尿器系の構造 | 橋口 |
| 第 9 回 | 尿の生成と排泄 | 橋口 |
| 第 10 回 | 体液の調節 | 橋口 |
| 第 11 回 | 酸塩基平衡 | 橋口 |
| 第 12 回 | ホルモンによる調節機構 | 橋口 |
| 第 13 回 | 内分泌器官とホルモンの作用① | 橋口 |
| 第 14 回 | 内分泌器官とホルモンの作用② | 橋口 |
| 第 15 回 | 生殖器と発生 | 橋口 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 事前に予習として教科書の該当ページを読んで講義に臨んでください。 |
| 履修条件 | 私語は慎みつつ、発言を促された際は積極的にお願ひします。 |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (第 6 版) 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 (第 6 版) 医学書院 |
| 参考書 | からだが見える/人体の構造と機能 MEDIC MEDIA |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 運動生理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験: (有)・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに運動生理学を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 運動によって身体にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する。 |
| 授業の到達目標 | 1) 筋力と持久力について説明できる。 2) 筋収縮のエネルギー源について説明できる。 3) 運動に伴う全身の変化を説明できる。 4) 筋力に対するトレーニングと老化の影響を説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 骨格筋の収縮 | 中尾 |
| 第2回 | 筋力と持久力 | 中尾 |
| 第3回 | 筋収縮のエネルギー源 | 中尾 |
| 第4回 | 運動強度と酸素摂取量 | 中尾 |
| 第5回 | 運動に伴う全身の変化 (循環器) | 中尾 |
| 第6回 | 運動に伴う全身の変化 (呼吸器) | 中尾 |
| 第7回 | トレーニングの効果 | 中尾 |
| 第8回 | 加齢変化 | 中尾 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 事前に予習として教科書の該当ページを読んで講義に臨んでください。 |
| 履修条件 | 私語は慎みつつ、発言を促された際は積極的にお願いします！ |

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 (第6版) 医学書院 |
| 参考書 | 基礎運動学 第7版 医歯薬出版 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 解剖生理学演習 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 福田健一（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：○・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに解剖生理学演習を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田健一（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 解剖生理学の講義で学修した知識を統合・整理し、各器官の形態・構造および機能・役割についての理解を深める。学習テーマごとに演習問題を提示し、解剖学と生理学に関する知識の定着を図る。 |
| 授業の到達目標 | 1. 各器官の形態・構造および機能・役割について説明することができる。 2. 他の学生と協力し、主体的な学習を継続することができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション、骨の基礎・連結 | 福田 |
| 第2回 | 筋の構造と機能（筋線維の種類とタイプなど） | 福田 |
| 第3回 | 関節（肩関節・肘関節の構造と機能、筋の作用など） | 福田 |
| 第4回 | 関節（股関節・膝関節の構造と機能、筋の作用など） | 福田 |
| 第5回 | 関節（脊柱と体幹の筋など）、確認テスト① | 福田 |
| 第6回 | 神経の興奮伝導、中枢神経系（大脳・脳幹など） | 福田 |
| 第7回 | 中枢神経系（脳幹・脊髄、伝導路など） | 福田 |
| 第8回 | 末梢神経系（脳神経・脊髄神経、支配神経など） | 福田 |
| 第9回 | 末梢神経（感覚神経など）、反射と筋活動 | 福田 |
| 第10回 | 感覚（感覚受容器、特殊感覚など）、確認テスト② | 福田 |
| 第11回 | 呼吸器系（解剖、呼吸運動・呼吸生理など） | 福田 |
| 第12回 | 循環器系（心臓の構造、刺激伝導系、全身の動静脈、循環の調節など） | 福田 |
| 第13回 | 消化器系（構造と機能など）、排泄（腎臓と泌尿器） | 福田 |
| 第14回 | 代謝（基礎代謝、栄養素など）、ホルモン（分泌器官・作用など） | 福田 |
| 第15回 | まとめ（国家試験問題）、確認テスト③、総括 | 福田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（60%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 実習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（20%） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（モノグサ）（20%） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 授業中にモノグサを使用するので、必要なデバイスを毎回準備すること。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | PT・OT 基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編（改訂第2版） 南江堂 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 / 生理学 医学書院 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 解剖学実習 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | |
| | （実務経験：有・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の触診に関する経験をもとに解剖学実習について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 45 |

| | |
|---------------|-------------------------------|
| 授業の概要 （主題） | 触察実技実習を通じ、臨床的思考のための知識へと深めていく。 |
| 授業の到達目標 | 上肢・体幹・下肢の骨・筋の触診が出来る。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|-----------|----|----|-----------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 触診の準備 | 小谷 | 16 | 上肢の触診④（筋） | 小谷 |
| 2 | 頸部の触診（骨） | 小谷 | 17 | 上肢の触診⑤（筋） | 小谷 |
| 3 | 体幹の触診（骨） | 小谷 | 18 | 下肢の触診①（筋） | 小谷 |
| 4 | 上肢の触診①（骨） | 小谷 | 19 | 下肢の触診②（筋） | 小谷 |
| 5 | 上肢の触診②（骨） | 小谷 | 20 | 下肢の触診③（筋） | 小谷 |
| 6 | 下肢の触診①（骨） | 小谷 | 21 | 下肢の触診④（筋） | 小谷 |
| 7 | 下肢の触診②（骨） | 小谷 | 22 | 下肢の触診⑤（筋） | 小谷 |
| 8 | 体幹の触診①（筋） | 小谷 | 23 | まとめ | 小谷 |
| 9 | 体幹の触診②（筋） | 小谷 | | | |
| 10 | 体幹の触診③（筋） | 小谷 | | | |
| 11 | 体幹の触診④（筋） | 小谷 | | | |
| 12 | 体幹の触診⑤（筋） | 小谷 | | | |
| 13 | 上肢の触診①（筋） | 小谷 | | | |
| 14 | 上肢の触診②（筋） | 小谷 | | | |
| 15 | 上肢の触診③（筋） | 小谷 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 触診する場所に関する骨・筋肉の復習をしておきましょう。 |
| 履修条件 | 医療人としての身なりを整え、授業に積極的に参加をしましょう。 |

| | |
|-----|-------------------------------|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（第5版） |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 人間発達学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 鳥瀬義知（所属：みさかえの園あゆみの家） | | | | |
| | （実務経験：有）病院、重症心身障害児・者施設にて理学療法士として勤務。病院や在宅での経験をもとに人間発達学について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 鳥瀬 義知 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 子どもの発達理解を通して、ヒトとしての成り立ちの理解が得られ、ヒトと接する際の他者理解、ひいては自己理解につながっていくことを学習する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 身体運動的発達の概要が理解できる。 2. 発達課題の概念が理解できる。 3. 上記の知識をリハビリテーションの評価・治療に応用できる |

| 授業計画 | | |
|------|------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 人間発達学総論 | 鳥瀬 |
| 第2回 | 胎児期の発達 | 鳥瀬 |
| 第3回 | 運動の発達 I | 鳥瀬 |
| 第4回 | 運動の発達 II | 鳥瀬 |
| 第5回 | 認知・社会性の発達 | 鳥瀬 |
| 第6回 | 言語・嚥下運動の発達 | 鳥瀬 |
| 第7回 | 発達検査 | 鳥瀬 |
| 第8回 | まとめ | 鳥瀬 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（ ） （100%） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | ヒトを診る理学療法士にとって発達過程を理解することで、対象者がどのように現在の状態に至ったか、またどのように変わっていくのかをより深く理解することにつながっていきます。 |
| 履修条件 | 必須科目であるため、必ず出席すること |

| | |
|-----|------------------------------------|
| 教科書 | Crosslinkbasic リハビリテーションテキスト 人間発達学 |
| 参考書 | 必要時講義にて紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 運動学 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 専任講師） （実務経験：○・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに運動学 1 を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 人間の身体運動に関する基本的な知識を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1. 身体運動に関する基本的な用語について理解する。 2. 身体運動に関わるさまざまな法則について理解する。 3. 運動器の構造と機能を理解する。 |

| 授業計画 | | | |
|------|---------------|------|----|
| 回数 | 内 容 | 頁 | 担当 |
| 1 | 関節の構造と機能 | P12 | 福田 |
| 2 | 骨格筋の機能と構造 | P16 | 〃 |
| 3 | 筋収縮の性質と様態 | P18 | 〃 |
| 4 | 股関節の運動学 | P53 | 〃 |
| 5 | 膝関節の運動学 | P63 | 〃 |
| 6 | 足関節・足部の運動学 | P73 | 〃 |
| 7 | 運動連鎖 | | 〃 |
| 8 | 肩複合体の運動学 | P21 | 〃 |
| 9 | 肘関節・前腕の運動学 | P31 | 〃 |
| 10 | 手関節・手指の運動学 | P41 | 〃 |
| 11 | 脊柱・体幹の運動学 | P83 | 〃 |
| 12 | 脊柱・体幹の運動学（頸部） | P87 | 〃 |
| 13 | 脊柱・体幹の運動学（体幹） | P91 | 〃 |
| 14 | 顎関節と顔面の運動学 | P101 | 〃 |
| 15 | まとめ | | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他(課題) (20%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | <ul style="list-style-type: none"> 講義→ふり返りテストの流れで進めます。 配布資料は各自ファイリングし、活用してください。 小テストは定期試験の評価に加味しますので、準備をしておいてください。 |
| 履修条件 | クラスメートの学習の妨げになるような行為は慎んでください。 |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト 運動学 基礎運動学 |
| 参考書 | 解剖学および生理学テキスト |

| | | | | | |
|------------------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 運動学 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） （実務経験：有）回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。障がい児・者へのリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |
| 授業の概要 （主題） | ヒトの身体の動きや姿勢、歩行について解剖学や生理学、身体運動学の知識をもとに生体力学的に理解するとともに、ヒトの身体を観察して記録する動作観察の基礎を養う | | | | |
| 授業の到達目標 | | | | | |
| 一 般 目 標 | ①生体力学の基礎を理解する | | | | |
| | ②健常者の姿勢と動作について理解する | | | | |
| | ③健常者の歩行と走行について理解する | | | | |
| | ④運動学習について理解する | | | | |
| 行 動 目 標 | ①生体力学の基礎について説明することができる | | | | |
| | ②健常者の姿勢と動作について説明することができる | | | | |
| | ③健常者の歩行と走行について説明することができる | | | | |
| | ④運動学習について説明することができる | | | | |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 生体力学（バイオメカニクス）の基礎 | 町田 |
| 2 | 生体力学（バイオメカニクス）の基礎 | 町田 |
| 3 | 姿勢（重心・重心線・立位姿勢の安定性） | 町田 |
| 4 | 姿勢（重心・重心線・立位姿勢の安定性） | 町田 |
| 5 | 姿勢（筋活動・姿勢戦略・立位姿勢の異常） | 町田 |
| 6 | 姿勢（筋活動・姿勢戦略・立位姿勢の異常） | 町田 |
| 7 | 歩行と走行（歩行周期・重心移動） | 町田 |
| 8 | 歩行と走行（歩行周期・重心移動） | 町田 |
| 9 | 歩行と走行（床反力・筋活動・関節モーメント） | 町田 |
| 10 | 歩行と走行（床反力・筋活動・関節モーメント） | 町田 |
| 11 | 歩行と走行（小児の歩行・高齢者の歩行・異常歩行） | 町田 |
| 12 | 走行と走行（小児の歩行・高齢者の歩行・異常歩行） | 町田 |
| 13 | 運動学習 | 町田 |
| 14 | 運動学習 | 町田 |
| 15 | まとめ | 町田 |

| 科目名 | 運動学 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
|--------------------|---|------|------|---|----|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技口頭試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (提出遅れ/未提出減点最大 10%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(課題) <input type="checkbox"/> その他 | | | | |
| 準備学習 | <p>【使用機器】プロジェクター（授業開始までに視聴覚機器を準備してください） PC は持参します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの（飲料・食料等）はバッグ等に入れておいてください。 | | | | |
| 学習への アドバイス | <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学・運動学 1・生理学との知識の連携が必須の内容です。それぞれの科目を復習しましょう。 2. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。資料のデータは整理しておきましょう。 3. 演習を行う際は、ジャージ等動きやすい服装を必ず準備してください。 4. 適時課題を課します。<u>期限遅れ、未提出は最大 10%の減点とします。</u> 5. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。 6. 授業で使用しないもの（飲料・食料等）はバッグ等に入れておいてください。 7. 身体に何らかの疾患、ケガ、体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 8. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。 <p>●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。</p> | | | | |
| 履修条件 | 履修条件はありません。必修科目であり、授業には連続性があるので出席してください。 | | | | |
| 教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 第7版：藤沢宏幸他（編著），医歯薬出版 ・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 第2版，石川朗他（編），中山書店 ・観察による歩行分析，Kirsten Gotz-Neumann（著）月城慶一他（訳），医学書院 | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析，高橋 正明（編），医学書院 ・実践！動作分析 第2版，上杉雅之（監）西守隆（編著），医歯薬出版 <p>その他、必要時講義にて紹介する</p> | | | | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 医学概論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 松屋 福蔵（所属 長崎医療センター 臨床検査科 医師） （実務経験：有）1978年に医師となり、以後、各地の病院にて主に泌尿器科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに医学、医療の全体像（医学概論）について講義予定。 | | | | |
| 科目担当者 | 松屋 福蔵 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | ・将来、医療に従事する中、問題を見つけ、解決策を模索する姿勢を身につける。あふれる情報の中、的確に情報を収集、整理、活用する習慣を身につける。各授業は前半を基本事項、後半を専門基礎分野を組み合わせて進めていく予定です。（概略は下記） |
| 授業の到達目標 | ・教科書（医学概論）を理解できる。・日常目にする情報にも触れつつ日々進歩、変化する医学、医療に目を向ける習慣をつける。・種々の医学用語、基礎的な解剖生理学を概略、理解できる。・代表的な病態、疾患について自学できる基礎を作る。 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 医学概論の総論 授業の進め方 基本事項（第1章～3章） | 松屋 |
| 第2回 | 基本事項（第12章） 主に感染症関連を中心に | 〃 |
| 第3回 | 基本事項（第7章～8章） | 〃 |
| 第4回 | 基本事項（第9章～13章） | 〃 |
| 第5回 | 専門基礎分野（第4章） | 〃 |
| 第6回 | 専門基礎分野（第5章） | 〃 |
| 第7回 | 専門基礎分野（第6章） | 〃 |
| 第8回 | 講義のまとめと試験について | 〃 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | ■定期試験 □実技試験 □実習評価 □小テスト □レポート □その他（ ） (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | ・教科書を中心に頭の中を整理する。 ・新聞、TVなどからの正確な情報収集と整理。 ・動画などを有効に利用し、要点だけでもノートにまとめておく。 |
| 履修条件 | やる気と自己の健康管理（疲れたら休みましょう）（自分の健康が大前提です） |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | コメディカルのための専門基礎分野テキスト「医学概論 改訂8版」 中外医学社 |
| 参考書 | Webサイトの利用：玉塾 出直し看護塾 理学療法士国家試験対策シリーズ など 医療、医学情報：新聞、NHK（サイエンスなど） |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 病理学概論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 熊谷 謙治 (長崎北徳洲会病院、医学博士 整形外科医師) (実務経験：有) 病理学は大学院在籍時および留学時に研鑽を重ね、その間厚労省認定の人体解剖、病理解剖および司法解剖の資格を取得。加えて医師としての臨床経験をもとに病理学概論の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 熊谷 謙治 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|-------------|
| 授業の概要 (主題) | 病理学概論 |
| 授業の到達目標 | 国家試験レベルへの到達 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 総論 | 熊谷 |
| 第2回 | 病因論 | 〃 |
| 第3回 | 病理学的変化 (細胞障害・代謝障害) | 〃 |
| 第4回 | 病理学的変化 (炎症・修復・再生・線維化) | 〃 |
| 第5回 | 病理学的変化 (変性疾患) | 〃 |
| 第6回 | 病理学的変化 (腫瘍) | 〃 |
| 第7回 | 病理学的変化 (循環器疾患・骨関節疾患) | 〃 |
| 第8回 | 感染・消毒 | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|----------------------------|
| 教科書 | 「図解 ワンポイント病理学」(岡田英吉、サイオ出版) |
| 参考書 | 「標準病理学」, |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 整形外科学1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 | | |
| 科目担当責任者 | 熊谷 謙治 (長崎北徳洲会病院、医学博士 整形外科医師) (実務経験:有) 整形外科、リハビリテーション科医師として病院に勤務 (整形外科専門医およびリハビリテーション学会の臨床認定医取得)。臨床経験をもとに整形外科学の指導にあたる。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 熊谷 謙治 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|-------------------|
| 授業の概要 (主題) | 整形外科学一般 |
| 授業の到達目標 | 整形外科学 国家試験受験レベル到達 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 総論 歴史 基礎 | 熊谷 |
| 第2回 | 診断学 | 〃 |
| 第3回 | 治療総論 外傷学総論 | 〃 |
| 第4回 | 外傷学各論 上肢 装具(義肢) | 〃 |
| 第5回 | 外傷学各論 下肢 | 〃 |
| 第6回 | 〃 | 〃 |
| 第7回 | 下肢外傷 | 〃 |
| 第8回 | 脊椎・脊髄の損傷 | 〃 |
| 第9回 | 上肢の疾患 | 〃 |
| 第10回 | 下肢の疾患 | 〃 |
| 第11回 | 脊髄疾患 | 〃 |
| 第12回 | 骨端症 | 〃 |
| 第13回 | 骨・関節の感染症 | 〃 |
| 第14回 | 関節リウマチと類縁疾患 | 〃 |
| 第15回 | 問題演習 (まとめ) | 〃 |

| | |
|-------------------|---|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 |
| (評価の基準) | (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------|
| 教科書 | 標準整形外科 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 神経内科学 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 河合 正行 (元長崎リハビリテーション学院 専任講師) (実務経験 : 有) 国立病院機構にて理学療法士として勤務。その臨床経験をもとに、神経内科疾患各種の病態・障害像について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 河合 正行 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | リハビリテーション専門職として必要な神経内科学の概念と基礎知識をグループで学習する。決められた範囲について自分たちで調べて分かりやすく講義する。他の学生にどう分かりやすく伝えられるか、1コマ1時間程度に上手にまとめる。 |
| 授業の到達目標 | 1)医学用語の意味を理解し、正しく記載でき適切に使用できる 2)診察所見や検査所見について、正常と異常を区別できる 3)主要な神経内科疾患や外傷で、その病態・症状・所見・治療を理解する 4)神経内科学で学んだ知識を、他の科目と関連づけて理解する 5)国家試験における神経内科分野の問題が解ける |

| 授業計画 | | |
|------|--|----|
| 回数 | 内容 | 担当 |
| 第1回 | 総論：中枢神経系の解剖と機能(14-31) | 河合 |
| 第2回 | 総論：神経学的診断と評価(35-50) | 〃 |
| 第3回 | 総論：神経学的検査法(51-67) | 〃 |
| 第4回 | 神経症候学：意識障害・脳死・植物状態・頭痛・めまい(71-78) | 〃 |
| 第5回 | 神経症候学：運動麻痺・錐体路徴候・不随意運動・運動失調(79-98) | 〃 |
| 第6回 | 感覚障害・高次脳機能障害・失語症(99-119) | 〃 |
| 第7回 | 高次脳機能障害・失認・失行・記憶障害(120-142) | 〃 |
| 第8回 | 注意障害・遂行機能障害・構音障害・嚥下障害・脳外科領域(143-169) | 〃 |
| 第9回 | 神経疾患各論 (脳血管障害) (173-203) | 〃 |
| 第10回 | 各論 (認知症・脳腫瘍・外傷性脳損傷) (204-237) | 〃 |
| 第11回 | 各論 (脊髄疾患・変性疾患・脱髄疾患) (238-261) | 〃 |
| 第12回 | 各論 (錐体外路の変性疾患・末梢神経障害・てんかん) (262-287) | 〃 |
| 第13回 | 各論 (筋疾患・感染性疾患・中毒性疾患・小児疾患・廃用) (288-350) | 〃 |
| 第14回 | 神経内科学のまとめ(スライド講義) | 〃 |
| 第15回 | 臨床筋電図のとりかた (デモンストレーション) 日本光電 | 〃 |
| 第16回 | 授業全体のまとめ (スライド講義) | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 正しく専門用語や医療用語を使い、できるだけ分かりやすく説明できるよう調べ、分からないことは積極的に質問をするように。 |
| 履修条件 | 定期試験には国試過去問から出題するのでなぜこの回答なのか説明できるように。 |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 (神経内科学) 第5版編集川平和美 医学書院 |
| 参考書 | ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) |

| | | | | | |
|---------|----------------------------|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 内科学1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 講師調整中 (所属) | | | | |
| | (実務経験：有・無) 市立大村市民病院に依頼中 | | | | |
| 科目担当者 | 講師調整中 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 内科学 ～症候学、診断学、臓器別各論～ |
| 授業の到達目標 | 1. 内科学とリハビリテーション医療についての理解を深める 2. 各臓器の働きや、主要な疾患概念を理解し、疾患を持つ患者のリハビリテーションについて学習する |

| 授業計画 | | |
|------|------------------------|-------|
| 回数 | 内容 | 担当 |
| 第1回 | 内科学総論／診断と治療の実際：医療面接 | 講師調整中 |
| 第2回 | 診断と治療の実際：診察と臨床検査 | 〃 |
| 第3回 | 循環器疾患① | 〃 |
| 第4回 | 循環器疾患② | 〃 |
| 第5回 | 呼吸器疾患 | 〃 |
| 第6回 | 消化器疾患 | 〃 |
| 第7回 | 肝胆膵疾患 | 〃 |
| 第8回 | 血液・造血器疾患 | 〃 |
| 第9回 | 代謝性疾患 | 〃 |
| 第10回 | 内分泌疾患 | 〃 |
| 第11回 | 腎・泌尿器疾患① | 〃 |
| 第12回 | 腎・泌尿器疾患② | 〃 |
| 第13回 | アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症 | 〃 |
| 第14回 | 感染症 | 〃 |
| 第15回 | 症候学 | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 復習を積極的に行うこと。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------|
| 教科書 | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 精神医学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士） | | | | |
| | （実務経験：有）精神科領域の作業療法士として、臨床現場での経験を活かし指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | 鎌田 秀一（所属 日見中央病院 作業療法士） 中野 心介（大村共立病院 精神保健指定医） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 1) 臨床症状的視点・社会適応的視点からみた各精神障害の自然史 2) 各精神障害の臨床経過・転帰に影響を及ぼす治療法、治療環境、治療促進・阻害要因 3) 各精神障害の各臨床ステージにおける症状群から患者の機能障害、活動・活動制限、参加・参加制約などの系統的な評価について概説する。 |
| 授業の到達目標 | 1) 各精神障害の精神症状が説明できる。 2) 各精神障害の臨床経過が説明できる。 3) 各精神障害の治療法が説明できる。 4) 各精神障害の社会的転帰が説明できる。 5) 臨床実践に必要な法律が説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|---------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1・2回 | 精神医学の概念と関連領域（精神症状の分類を含む） | 鎌田 |
| 第3・4回 | 統合失調症 病因、基本症状、臨床経過、治療、臨床経過と転帰 | 〃 |
| 第5・6回 | 器質性精神障害（認知症を主とし、病因、基本症状、臨床経過 治療、転帰） | 〃 |
| 第7回 | 気分障害 病因、基本症状、臨床経過 | 中野 |
| 第8回 | 気分障害 治療、転帰 | 〃 |
| 第9・10回 | 神経症性障害、ストレス関連障害および行動症候群、てんかんに関する病因、基本症状、臨床経過、治療、転帰 | 〃 |
| 第11回 | 精神作用物質・その他使用による精神および行動の障害 病因、基本症状、臨床経過 | 〃 |
| 第12回 | 成人のパーソナリティおよび行動の障害 基本症状、臨床経過 | 〃 |
| 第13・14回 | 児童・思春期の精神障害 基本症状、臨床経過 | 〃 |
| 第15回 | 包括的治療（薬物療法、心理社会的療法など） | 〃 |
| 第16回 | 法律（精神保健福祉法など） | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 教科書等で予備知識を持つこと。 |
| 履修条件 | 必修科目である。 |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 太田保之・上野武治(編集)：学生のための精神医学第3版，医歯薬出版株式会社，2014， |
| 参考書 | 必要時、授業で紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 救急救命医学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 講師調整中(所属) | | | | |
| | (実務経験: 有・無) 長崎医療センターに依頼中 | | | | |
| 科目担当者 | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|----------------------------|
| 授業の概要 (主題) | 救急処置と看護を学ぶ |
| 授業の到達目標 | 主要病態に対する救急処置と看護に関する知識を習得する |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|-------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 救急医療体制 | 講師調整中 |
| 第2回 | 救急患者の特徴 | 〃 |
| 第3回 | 院内急変時における対応 | 〃 |
| 第4回 | 在宅急変時における対応 | 〃 |
| 第5回 | 救急時の看護技術① | 〃 |
| 第6回 | 救急時の看護技術② | 〃 |
| 第7回 | 主要病態に対する救急処置と看護 ① | 〃 |
| 第8回 | 主要病態に対する救急処置と看護 ② | 〃 |
| 第9回 | 普通救命講習Ⅱ(実技) | 専任講師 |
| 第10回 | 普通救命講習Ⅱ(実技) | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-------|
| 教科書 | 救急看護学 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | リハビリテーション概論 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) 病院にて療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハビリテーション概論 1 を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉・田中 剛・河野 武・橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) 松尾 みき (大村市医師会訪問看護ステーション 作業療法士) 山本 真司 (日浦病院 理学療法士) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション専門職の学びに必要な共通かつ基本的な概念について学習する。 ・リハビリテーションチームにおけるそれぞれの専門職の役割を学習する。 ・リハビリテーションの流れを知り、これからの学習における動機づけを行う。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションとは何か説明できる ・障害の捉え方について知り、考えることができる ・リハビリテーションの流れを理解することができる |

| 授業計画 | | |
|------|---|-----|
| 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | リハビリテーションとは？ (定義や歴史) | 小 谷 |
| 2 | ノーマライゼーション、IL 運動 | 小 谷 |
| 3 | 障害の捉え方 ①国際生涯分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF) ②障害受容 | 小 谷 |
| 4 | リハビリテーションの分類 | 小 谷 |
| 5 | 予防医学の理解とリハビリテーション | 小 谷 |
| 6 | 多職種連携の理解、チーム医療論、カンファレンス | 小 谷 |
| 7 | リハビリテーションを支える社会保障制度(1) | 小 谷 |
| 8 | リハビリテーションを支える社会保障制度(2) | 小 谷 |
| 9 | 理学療法ならびに理学療法士について | 橋 口 |
| 10 | 言語聴覚療法ならびに言語聴覚士について | 河 野 |
| 11 | 作業療法ならびに作業療法士について | 田 中 |
| 12 | 地域包括ケアシステム 総論① | 松 尾 |
| 13 | 地域包括ケアシステム 総論② | 松 尾 |
| 14 | 地域包括ケアシステム 各論① | 山 本 |
| 15 | 地域包括ケアシステム 各論② | 山 本 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20%) <input type="checkbox"/> その他(%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 先入観にとらわれず、思考を柔軟にして授業に臨んでください。 |
| 履修条件 | リハビリテーション概論の見学は、履修の必須条件です。 |

| | |
|-----|--------------|
| 教科書 | 随時、資料を配布します。 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 社会福祉概論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 柏木 伸子 (社会福祉法人ことの海会 相談支援センタースマイル 相談支援専門員) | | | | |
| | (実務経験*:有) ・社会福祉士取得後、障害者支援施設で入所・通所のご利用者とそのご家族の様々な相談や困難ケースの対応を実践してきた。 ・平成20年より障害児入所施設の民間移譲に伴い、園長として児童相談所をはじめ福祉行政機関および教育機関との連携のため、ネットワークの構築に努めた。 ・地域の自立支援協議会委員として、「児童発達支援部会」の設置を呼びかけ、また、児童発達支援センターの創設に取り組んだ。 ・障害児者支援の要である「児童発達支援管理責任者およびサービス管理責任者」の国研修を受け、長年、県の講師及びファシリテーターを務めた。 ・障害児入所施設及び児童発達支援センターでは、貴校の臨床実習の受け入れも行えるよう作業療法士の人員配置等を考慮し、その他の国家資格取得のための現場実習も多数実施してきた。 ・障害児者が地域で暮らしていくために、福祉だけでなく医療・教育との連携の必要性を理解できるよう、また、現実としての国の現状を、講義の中で促していく。 | | | | |
| 科目担当者 | 柏木 伸子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 人びとの生活を保障する社会福祉の形成過程をふまえて法律や制度、福祉サービスを理解し、援助方法について基礎的な知識を学ぶ。これらの学びをとおして、リハビリ専門職としてそれらを社会資源として活用できるようになることを目指す。 |
| 授業の到達目標 | 社会福祉の法律と制度の概要を理解できる 社会福祉のサービスを理解できる 社会福祉の援助を理解できる |

| 授業計画 | | |
|------|------------|----|
| 回数 | 内容 | 担当 |
| 第1回 | 社会福祉の歴史 | 柏木 |
| 第2回 | 社会福祉の動向 | 柏木 |
| 第3回 | 高齢者福祉サービス | 柏木 |
| 第4回 | 障害者福祉サービス | 柏木 |
| 第5回 | 児童家庭福祉サービス | 柏木 |
| 第6回 | 地域福祉サービス | 柏木 |
| 第7回 | 社会福祉の援助1 | 柏木 |
| 第8回 | 社会福祉の援助2 | 柏木 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | リハビリ専門職として関わる人々を取り巻く制度や社会保障等に理解を深めることで広い視野を持ち、さらなる専門職としてのスキルと高めてください。 |
| 履修条件 | 積極的に取り組み、私語等は慎むこと |

| | |
|-----|-------------------------|
| 教科書 | 医学書院『系統看護学講座 社会保障・社会福祉』 |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 理学療法学概論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに概論について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | | 1 | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 理学療法について理解を深める講義である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士の法的背景等を学び、基本的な理学療法の流れについて学修する。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士の法的背景や、臨床における専門性と役割について説明できる。 ・理学療法過程と臨床思考過程を説明できる。 ・代表的疾患の病態の特徴を簡単に説明できる。またそれらに対する標準的な理学療法評価および治療が説明でき、簡単な手技を実施できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------------------|-----|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法の役割 | 橋口 |
| 第2回 | 理学療法士の法律、関連法規 | 橋口 |
| 第3回 | 理学療法の意義と役割、理学療法の方法 | 橋口 |
| 第4回 | 系統別理学療法学の理解～運動器疾患～ | 橋口 |
| 第5回 | 系統別理学療法学の理解～脳血管障害・神経筋疾患～ | 橋口 |
| 第6回 | グループ発表 | 橋口 |
| 第7回 | 医療政策と PT | 橋口 |
| 第8回 | まとめ | 橋口 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> グループ発表 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 理学療法の基礎となる学問です。普段からしっかりと復習を行いましょう。 |
| 履修条件 | 必修の講義ですので、欠席等無いよう体調管理には十分気をつけましょう。 |
| 教科書 | シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第3版 |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 機能障害科学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 | | |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | | | |
| | （実務経験：☑有・□無） 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに機能障害の病態とメカニズムについての指導にあたる。 | | | | | | |
| 科目担当者 | | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 理学療法士の治療ターゲットである機能障害の病態や発生メカニズムについて知り、問題解決能力の向上を図る。 |
| 授業の到達目標 | 機能障害の病態や発生メカニズムを理解する。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 炎症 | 中尾 |
| 第2回 | 創傷、靭帯損傷・腱損傷 | 中尾 |
| 第3回 | 骨損傷 | 中尾 |
| 第4回 | 末梢神経損傷、筋損傷 | 中尾 |
| 第5回 | 筋力低下 | 中尾 |
| 第6回 | 関節可動域制限 | 中尾 |
| 第7回 | フレイル | 中尾 |
| 第8回 | 疼痛 | 中尾 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | ☑定期試験 (90%) □実技試験 (%) □実習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) ☑その他(課題) (10%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 毎回テキストの該当箇所を事前に読んで講義に臨んでください。 |
| 履修条件 | 私語を慎み、興味を持って講義に臨んでください。 |

| | |
|-----|------------------------------|
| 教科書 | 運動器の傷害と機能障害—その病態とメカニズム（三輪書店） |
| 参考書 | 必要に応じて紹介します。 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法評価学 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験:有) 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに理学療法評価学について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法における基礎的な検査・測定から評価、治療の流れについて理解し、理学療法評価および治療に必要な基本的な検査・測定方法の意義や手技を学び習得する。 |
| 授業の到達目標 | 理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 理学療法における基本的な検査・測定の目的や意義を述べることができる。 |

| 授業計画 | | |
|-------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 総論・片麻痺機能検査 (Brunnstrom Recovery Stage) | 橋口 |
| 第 2 回 | 感覚検査 (触覚) | 橋口 |
| 第 3 回 | 感覚検査 (受動運動覚) | 橋口 |
| 第 4 回 | 形態測定 (下肢長のみ) | 橋口 |
| 第 5 回 | 関節可動域測定 | 橋口 |
| 第 6 回 | 筋力検査 | 橋口 |
| 第 7 回 | 反射検査 | 橋口 |
| 第 8 回 | 協調性検査 | 橋口 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 検査・測定に必要な解剖、運動、生理学について復習しておく。 |
| 履修条件 | 実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい。 |

| | |
|-----|-------------------------|
| 教科書 | 理学療法評価学 第 6 版補訂版 (金原出版) |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 運動療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 福田 健一(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| | (実務経験:○・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに運動療法学を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田 健一(長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 3 |
| | | 時間数 | 45 | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 運動療法の基礎となる知識・技術を習得し、運動療法を科学として考えることを習得する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 運動療法機器に関する基礎知識と使用方法を理解し実施できる。 2. 一般的な運動療法を理解し実施できる。 (関節可動域、筋力増強、バランス等) |

| 授業計画 | | | | | |
|------|---------------|----|----|-------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 結合組織の構造と機能 | 福田 | 16 | 筋力維持・増強運動③ | 福田 |
| 2 | 関節の構造 | 福田 | 17 | 持久力増強運動① | 福田 |
| 3 | 骨格筋の構造と機能 | 福田 | 18 | 持久力増強運動② | 福田 |
| 4 | 神経系の構造と機能 | 福田 | 19 | 持久力増強運動③ | 福田 |
| 5 | 一般的な組織の修復過程 | 福田 | 20 | バランス機能改善運動① | 福田 |
| 6 | 運動器の修復及び再生の実際 | 福田 | 21 | バランス機能改善運動② | 福田 |
| 7 | 浮腫の発生 | 福田 | 22 | 国家試験演習問題 | 福田 |
| 8 | 痛みの発生 | 福田 | 23 | まとめ | 福田 |
| 9 | 基本的運動 | 福田 | 24 | | |
| 10 | 運動療法機器 | 福田 | 25 | | |
| 11 | 関節可動域運動① | 福田 | 26 | | |
| 12 | 関節可動域運動② | 福田 | 27 | | |
| 13 | 関節可動域運動③ | 福田 | 28 | | |
| 14 | 筋力維持・増強運動① | 福田 | 29 | | |
| 15 | 筋力維持・増強運動② | 福田 | 30 | | |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (40%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10%) <input type="checkbox"/> その他(%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 実技の内容はしっかりと復習(練習)して下さい 運動療法機器に対してレポート作成をしてもらいます。 講義中の携帯電話の使用は厳禁とします。 |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 |

| | |
|-----|------------------|
| 教科書 | 運動療法 I 第2版, 神陵文庫 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 物理療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験:有) 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに物理療法学について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実技 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 物理療法に対する理学療法について理解する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 物理療法の定義を理解できる。 2. 理学療法の各特徴を理解できる。 3. 物理療法の手順や適応・禁忌事項を理解できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 物理療法総論について | 橋口 |
| 第2回 | 温熱療法について | 〃 |
| 第3回 | 温熱療法各種類について(実技) | 〃 |
| 第4回 | 寒冷療法について | 〃 |
| 第5回 | 寒冷療法各種類について(実技) | 〃 |
| 第6回 | 光線療法について | 〃 |
| 第7回 | 光線療法各種類について(実技) | 〃 |
| 第8回 | 水治療法について | 〃 |
| 第9回 | 水治療法各種類について(実技) | 〃 |
| 第10回 | 電気刺激療法について | 〃 |
| 第11回 | 電気刺激療法各種類について(実技) | 〃 |
| 第12回 | 牽引療法について | 〃 |
| 第13回 | 牽引療法頸椎・腰椎について(実技) | 〃 |
| 第14回 | 持続的他動運動療法・振動刺激療法について | 〃 |
| 第15回 | 物理療法総括 | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (発表) (30%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義・実技形式で行います。動きやすいように実習着着用にしてください。 |
| 履修条件 | 積極的に取り組み、私語は慎み真摯な態度を望む。 |

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 教科書 | 理学療法学テキストⅨ 物理療法 第2版(神陵文庫) 資料あり |
| 参考書 | 必要に応じて紹介する。 |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------|------|------|-----|----|
| 科目名 | 日常生活活動学 | | | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院 専任講師) | | | | | | |
| | (実務経験:有) 理学療法士として病院および介護領域での勤務経験をもとに日常生活活動学について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 早井 あかね | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | | 学 年 | 1 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実技 | 単位数 | 3 | 時間数 | 45 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 日常生活活動の評価への理解を深めるとともに、各疾患における動作の特徴を分析し、その結果から指導方法を考案する能力を身につける。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活活動動作 (ADL) の概念・ICF を説明することができる。 日常生活活動の評価方法を学び、2年生からの実習に活かすことができる。また国家試験で出題される日常生活活動に関連する問題の解説を作ることができる。 基本動作や各疾患に特徴的な日常生活について学び、第三者に説明すること (指導すること) ができる |

| 授業計画 | | | | | |
|------|---------------------|----|----|----------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 日常生活活動 (ADL) の概念 | 早井 | 13 | 片麻痺の日常生活活動① | 早井 |
| 2 | 日常生活活動の評価 (総論) | 〃 | 14 | 片麻痺の日常生活活動② | 〃 |
| 3 | Barthel Index (BI) | 〃 | 15 | 片麻痺の日常生活活動③ | 〃 |
| 4 | Barthel Index (BI) | 〃 | 16 | 脊髄損傷の日常生活活動① | 〃 |
| 5 | FIM | 〃 | 17 | 脊髄損傷の日常生活活動② | 〃 |
| 6 | FIM | 〃 | 18 | 脊髄損傷の日常生活活動③ | 〃 |
| 7 | FIM | 〃 | 19 | 整形疾患の日常生活活動① | 〃 |
| 8 | 移動補助具 (杖、白杖、松葉杖) | 〃 | 20 | 整形疾患の日常生活活動② | 〃 |
| 9 | 移動補助具 (杖、白杖、松葉杖) | 〃 | 21 | 神経筋疾患の日常生活活動 | |
| 10 | 移動補助具 (車いす) | 〃 | 22 | 認知症の日常生活活動視覚障害 | |
| 11 | 移動補助具 (車いす) | 〃 | 23 | まとめ | |
| 12 | 基本動作 (寝返り・起き上がり・起立) | 〃 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 国家試験での出題はもちろん、2年次で学ぶ疾患別への ADL 指導や臨床実習につながる科目となりますので、言葉の意味、評価法の種類、移動補助具の名称などを理解してください。 |
| 履修条件 | 必須科目であるので、必ず出席すること。 |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 理学療法学テキスト 日常生活活動学 (MEDICAL VIEW、2020年) 脳卒中の機能評価 SIAS と FIM [基礎編] (編著 千野直一他、金原出版、2015年) |
| 参考書 | 日常生活活動 (ADL) 第2版 (千住秀明監修、神陵文庫、2015年) 必要に応じて、資料を配布します |

| | | | | | |
|---------|---|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | パラスポーツ | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 小森 峻（医療法人福郎会 道ノ尾みやた整形外科） | | | | |
| | （実務経験：有） 整形外科クリニックに勤める傍ら、パラスポーツトレーナーとして車いすバスケットボールを中心とした活動に従事している。 | | | | |
| 科目担当者 | 小森 峻（所属 医療法人福郎会 道ノ尾みやた整形外科） 長井 庄吾（所属 社会福祉法人緑葉会 大瀬戸厚生園 日中活動統括部長） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実技 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | パラスポーツの定義や目的、実施意義について学び、理学療法士がパラスポーツの普及・振興に果たす役割について議論する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 障がい者における「スポーツ活動」の意義と理念について理解する。 2. さまざまなパラスポーツの特性を理解し、その基本的な指導方法を習得する。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション、パラスポーツと理学療法士 | 小森 |
| 第2回 | パラスポーツの国内外の現状 | 小森 |
| 第3回 | 日本パラスポーツ協会と指導員制度 | 小森 |
| 第4回 | パラスポーツと社会参加（グループワーク）、講義の総括 | 小森 |
| 第5回 | 車いすバスケットボール（実技） | 小森 |
| 第6回 | 車いすバスケットボール（実技） | 小森 |
| 第7回 | ボッチャ・フライングディスク（実技） | 長井 |
| 第8回 | ボッチャ・フライングディスク（実技） | 長井 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（ ） （ 60 %） （ %） （ %） （ %） （ 40 %） （ %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | パラスポーツに対する関心を高め、日頃から関連記事に目を通す。グループワークでは、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 毎回、資料を配布する。 |
| 参考書 | 競技ガイド 大会ガイド 日本パラスポーツ協会 (https://www.parasports.or.jp) 改定版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級） |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 臨床実習 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに臨床実習前後の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 理学療法学科専任教員 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 1 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 実習 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 40 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 対象者や施設・医療スタッフに対する適切な態度や、診療チームの一員としての理学療法士の役割について学ぶ |
| 授業の到達目標 | 1) 医療人として必要な基本的態度を身につける 2) 理学療法士の役割と責任について理解する 3) 理学療法士を目指すものとしての自覚を高める |

| 授業計画 | | |
|--------------------------|--|---------------|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 10月5日 ～10月9日 (5日間) | <p>学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。</p> <p>〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前 OSCE (客観的臨床能力試験)</p> <p>〈臨床実習〉 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、診療チームの一員としての適切な態度や役割について学ぶ</p> <p>〈事後学習〉 実習の振り返り</p> | 専任教員 実習指導者 |

| | | | |
|-------------------|--|---|---|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習前評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習地評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習後評価 |
| (評価の基準) | <ul style="list-style-type: none"> 実技試験 筆記試験 (20 %) | (60 %) | <ul style="list-style-type: none"> デイリーノート (20 %) |
| | 臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。 | | |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。 | | |
| 履修条件 | | | |

| | |
|-----|--------------------|
| 教科書 | 臨床実習で必要となるすべてのテキスト |
| 参考書 | |

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

理学療法学科 2 年次

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | カウンセリング論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 城下 未来（長崎リハビリテーション学院 言語療法学科 専任講師） （実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関でのカウンセリングに従事した経験をもとに、対人援助場面において必要なカウンセリングの理論や技法について講義を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 城下 未来 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | カウンセリングに関する基本的な理論や技法について学ぶとともに、リハビリテーションにおけるカウンセリングの有用性を理解し、リハ専門職として援助場面におけるカウンセリングの活用について考える機会とする。 |
| 授業の到達目標 | 1. カウンセリングの基本理論や技法について説明できる 2. リハビリテーション場面でのカウンセリングの有用性について理解する 3. カウンセリングの理論や技法について援助場面で応用できる力を養う |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | カウンセリング概説 | 城下 |
| 第2回 | カウンセリングマインド（態度、観察事項など） | 城下 |
| 第3回 | カウンセリングの理論 | 城下 |
| 第4回 | カウンセリングの技法① 話の聴き方 | 城下 |
| 第5回 | カウンセリングの技法② 受容、共感 | 城下 |
| 第6回 | カウンセリングの技法③ 質問 | 城下 |
| 第7回 | カウンセリングの技法④ 解決志向アプローチ | 城下 |
| 第8回 | カウンセリングの技法⑤ 承認、動機づけ・まとめ | 城下 |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|-------------------|---|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 (演習等への取り組み) |
| (評価の基準) | (90 %) (%) (%) (%) (%) (10 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 座学だけではなく可能な範囲で演習なども取り入れながら、体験的な学びの機会となるようにしていきたいと思っています。積極的な取り組みを望みます。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|------------------------|
| 教科書 | 系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院） |
| 参考書 | 適宜紹介します |

| | | | | | |
|---------|--------------------------------------|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 保健体育2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 白川 美和 (所属 向陽学園 向陽高校) | | | | |
| | (実務経験：無) 高校教員としての経験をもとに、学生指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 白川 美和 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 記録や勝敗にこだわらず、職場の仲間や気の合う仲間とのふれあいを重視し、生涯継続して楽しむことにより、心身の健康に良い影響をおよぼすレクリエーションスポーツに対する社会的ニーズが高まっている。そこで「生涯を通じていつでも、どこでも、誰とでもスポーツに親しむ」ことができるように、団体で行えるスポーツを中心に基本的な知識と実践能力を養うことを目的とする。 |
| 授業の到達目標 | 1、安全・健康を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを確立する。 2、勝敗を競う楽しさや喜びを知る。 3、チームや自己の課題に応じた練習計画や作戦を立て、取り組み方を工夫し考える力をつける。 4、フェアなプレイを大切に、また仲間を尊重できるようにする。 |

| 授業計画 | | |
|------|---------------------------|----|
| 回数 | 内容 | 担当 |
| 第1回 | オリエンテーション・ルール確認・グループ分け・練習 | 白川 |
| 第2回 | 選択競技 | 〃 |
| 第3回 | 選択競技 | 〃 |
| 第4回 | 選択競技 | 〃 |
| 第5回 | 選択競技 | 〃 |
| 第6回 | 選択競技 | 〃 |
| 第7回 | 選択競技 | 〃 |
| 第8回 | 選択競技 | 〃 |

【変更後】

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(出席・態度) (%) (%) (%) (%) (%) (100 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 出席や受講態度での評価を行いますので、休まないこと。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | ホスピタリティ論2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ) | | | | |
| | (実務経験：有) 多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | 田中 美吉子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間とのコミュニケーション・職場におけるビジネスマナーについて ・自分とのコミュニケーション (感情コントロール) について ・生活や人生の節目に活かすマナー (冠婚葬祭、お見舞いのマナーなど) |
| 授業の到達目標 | 状況に応じたコミュニケーション力を養う。 |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 職場のルールとビジネスマナー、報告・連絡・相談、指示命令の受け方 | 田中 |
| 第2回 | 病棟、訪室、エレベーター乗降りのマナー、席次 (上座&下座) | 田中 |
| 第3回 | ご高齢者とのコミュニケーション、上手な断り方、プライバシーへの配慮 | 田中 |
| 第4回 | 4つのソーシャルスタイル別コミュニケーション | 田中 |
| 第5回 | 実習の振り返りと医療現場におけるホスピタリティについて | 田中 |
| 第6回 | アンガーマネジメント (医療・介護の現場に求められる感情コントロール法) | 田中 |
| 第7回 | クレーム&苦情対応、事例検討 | 田中 |
| 第8回 | 職場の冠婚葬祭、お見舞いのマナー、 総合試験 | 田中 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(学習態度) (40%) (%) (30%) () (%) (30%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 授業への取組姿勢、態度、聴き方、他者との関わり方すべてを評価対象とします。 接遇マナーは習慣です。日常生活でも常に意識しましょう。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|------|
| 教科書 | 配布資料 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----------|
| 科目名 | 疼痛生理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 介田 圭（所属 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教） （実務経験：有） 歯科医師としての臨床経験をもとに、リハビリテーションの場で多くの問題となる「痛み」をテーマに学生指導を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 介田 圭 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 時間数 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | リハビリテーション専門職として必要な「痛み」の概念と基礎知識を学習する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 痛みの系統発生・歴史について理解できる。 2. 臨床における様々な痛みとその測定法について理解できる。 3. 痛みのメカニズムについて理解できる。 4. 鎮痛薬について理解できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------|-----|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 痛みの系統発生・研究の歴史 | 介田 |
| 第2回 | 東洋における痛みの歴史 | 介田 |
| 第3回 | 臨床における様々な痛み | 介田 |
| 第4回 | 臨床における痛みの測定法 | 介田 |
| 第5回 | 痛覚伝達機構 | 介田 |
| 第6回 | 痛みの中枢伝達機構 | 介田 |
| 第7回 | 神経障害性疼痛・内因性鎮痛機構 | 介田 |
| 第8回 | 鎮痛薬 | 介田 |
| 第9回 | | |
| 第10回 | | |
| 第11回 | | |
| 第12回 | | |
| 第13回 | | |
| 第14回 | | |
| 第15回 | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (95 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (5 %) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義後は十分な復習を。 |
| 履修条件 | 授業には連続性があるので、できるだけ出席してください。 |

| | |
|-----|------------|
| 教科書 | 特にありません。 |
| 参考書 | 必要時、授業にて紹介 |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 生理学実習 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 介田 圭（所属 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科補綴学分野 保存修復学部門 助教） （実務経験：有） 歯科医師として勤務。口腔リハビリテーションにも携わるなどの臨床現場の経験をもとに、講義を行う。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 介田 圭 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 1 | 時間数 | 45 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | リハビリテーション専門職として必要な生きた組織や器官を扱う機会が非常に少ないので、生理学実習を体験することで、教科書を読むことによって得た知識を実験で実際体験することにより、生きた知識として身につける。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚点の分布やその温度依存性など特性を理解できる 2. ウェーバー・フェヒナーの法則とスティーブンスの法則を通してわれわれの感覚の生理学的性質を理解できる 3. 感覚器のメカニズムを理解できる 4. 骨格筋のはたらきを理解できる 5. 臨床検査器具を使用し、その使用法、特性を理解できる |

| 授業計画 | | | | | |
|------|--------------|----|----|------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 皮膚感覚（触圧点・痛点） | 介田 | 13 | 温度感覚 | 介田 |
| 2 | 〃 | 〃 | 14 | 〃 | 〃 |
| 3 | 皮膚感覚（冷点・温点） | 〃 | 15 | 舌における味覚の分布 | 〃 |
| 4 | 〃 | 〃 | 16 | 〃 | 〃 |
| 5 | 皮膚感覚（2点識別閾） | 〃 | 17 | 検知閾・認知閾 | 〃 |
| 6 | 〃 | 〃 | 18 | 〃 | 〃 |
| 7 | 歯の植立部位の弁別 | 〃 | 19 | 筋電図・随意運動の反応時間・聴覚 | 〃 |
| 8 | 〃 | 〃 | 20 | 〃 | 〃 |
| 9 | 視覚生理学 | 〃 | 21 | 除脳ねこ Video 実習 | 〃 |
| 10 | 〃 | 〃 | 22 | 〃 | 〃 |
| 11 | 重量感覚 | 〃 | 23 | スパイロ・心電図 | 〃 |
| 12 | 〃 | 〃 | 24 | 〃 | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (50%) (%) (%) (%) (50%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 実習前に生理学の予習をして、実習にのぞんでください。 |
| 履修条件 | 特にありません |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 特にありません |
| 参考書 | 解剖生理学 実験テキスト 一生理学編一 木本 万里・戸田 一雄 著 おうふう |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 運動学演習 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 福田健一（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| | （実務経験：有・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに運動学演習を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田健一（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 運動学の講義で学修した内容について、演習課題（実技）を通して再確認する。また、これらの知識を統合・整理したうえで、ヒトの姿勢や基本動作を運動学的に観察する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 運動器の機能解剖について、力学的な背景を踏まえて説明することができる。 2. ヒトの姿勢や動作を運動学的に捉えることができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | てことつり合い | 福田 |
| 第2回 | 関節モーメントとトルクの計算 | 福田 |
| 第3回 | 運動学習について① | 福田 |
| 第4回 | 運動学習について② | 福田 |
| 第5回 | 歩行について① | 福田 |
| 第6回 | 歩行について② | 福田 |
| 第7回 | 歩行について③（寝返り・起き上がりについて） | 福田 |
| 第8回 | 国家試験演習問題 | 福田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験（80%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ % ） <input type="checkbox"/> 実習評価（ % ） <input type="checkbox"/> 小テスト（ % ） <input checked="" type="checkbox"/> レポート（20%） <input type="checkbox"/> その他（ % ） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 準備学習として、関連科目（運動学）の基本事項を復習しておくこと。 異常歩行に関するレポート課題の作成を行う。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-------------------------------|
| 教科書 | 15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト 運動学 |
| 参考書 | 基礎運動学 第6版 補訂 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 整形外科2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉(長崎リハビリテーション学院専任講師) (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに整形外科2の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉(長崎リハビリテーション学院専任講師) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法における整形外科疾患の理解を深める |
| 授業の到達目標 | 1. 各分野の特徴を理解する。 2. 国家試験における出題基準を確認する。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 骨折について、骨折の合併症について | 小谷 |
| 第2回 | 脱臼の靭帯損傷について、末梢神経損傷について | 小谷 |
| 第3回 | 他末梢神経損傷について、骨端症について | 小谷 |
| 第4回 | 脊椎疾患について、変形性関節症について | 小谷 |
| 第5回 | 変形性関節症について、関節リウマチについて | 小谷 |
| 第6回 | 骨粗鬆症について、切断について | 小谷 |
| 第7回 | スポーツ外傷について、熱傷について | 小谷 |
| 第8回 | その他整形外科疾患について、まとめ | 小谷 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 1年次での整形外科の復習を行ってください。 講義内で不明な点は、積極的に質問するようにしてください。 |
| 履修条件 | 真摯な態度で臨み、私語を慎むこと |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 教科書 | PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編 第3版 (南江堂) |
| 参考書 | 必要時、配布する |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 神経内科学2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) (実務経験: (有)・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに神経内科学2の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 神経内科学は神経系の疾患を扱う学問で、大きく中枢神経系疾患、末梢神経系疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患に分けられる。本講義では、人間における神経生理学的特徴、診察、疾患、治療にいたるまで、広い視点で臨床医学としても使用できるように知識を習得する。 |
| 授業の到達目標 | 脳・神経・筋疾患の病態生理、症状、症候、予後などについて、国家試験出題レベルの知識をもつ。 |

| 授業計画 | | |
|------|------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 高次脳機能障害、運動麻痺 | 小谷 |
| 第2回 | 感覚障害、その他の症候 | 小谷 |
| 第3回 | 脳血管障害、頭部外傷 | 小谷 |
| 第4回 | 大脳皮質の変性症(認知症)、大脳基底核の変性 | 小谷 |
| 第5回 | 脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患 | 小谷 |
| 第6回 | 脱髄性疾患、筋疾患 | 小谷 |
| 第7回 | 神経筋接合部疾患 | 小谷 |
| 第8回 | まとめ | 小谷 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他 () (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 一度学習した分野なので、復習を兼ねて取り組んでください。 |
| 履修条件 | 欠席が無いよう体調管理、スケジュール管理に注意すること。積極的な講義参加、講義への貢献を期待します。 |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 教科書 | PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編 第3版 (南江堂) |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 内科学2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| | （実務経験：有）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに内科学2の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 内科学は疾患の診断・治療・管理の理解をはじめ、効率よく安全にリハビリテーションを展開するうえで重要な知識となる。この講義では内科疾患の病態を理解し、適切なリハビリテーションを提供できる知識を身につける。 |
| 授業の到達目標 | 1. 各臓器の働き、疾患の概要を理解する 2. 各疾患に対する国家試験の問題に対応できるようになる |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 循環器疾患 | 小谷 |
| 第2回 | 呼吸器疾患 | 〃 |
| 第3回 | 消化管疾患、肝胆膵疾患 | 〃 |
| 第4回 | 血液・造血器疾患、内分泌疾患 | 〃 |
| 第5回 | 代謝性疾患 | 〃 |
| 第6回 | 腎・泌尿器疾患 | 〃 |
| 第7回 | アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 | 〃 |
| 第8回 | 感染症・リハビリテーションに必要な栄養学 | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（ ） (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 内部疾患を理解し、病態を把握することは対象者の全身状態を把握し、適切なリハビリを提供する上でとても重要です。1年時に学習した「内科学I」を各自復習し、さらに理解を深めるように勉強しましょう。 |
| 履修条件 | 必修科目であるため、必ず出席すること。 |

| | |
|-----|-------------------------------------|
| 教科書 | PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 臨床医学編 第3版（南江堂） |
| 参考書 | 必要時、講義内にて紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 臨床心理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 城下 未来（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）公認心理師・臨床心理士として学校や民間相談機関、産業メンタルヘルスでのカウンセリングに従事。それらの経験を踏まえ、対人援助場面において必要な臨床心理学の知識について講義を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 城下 未来 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 臨床心理学の概要について学習し、患者の心理的問題の理解や援助の基礎となる知識を習得する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 臨床心理学の基礎知識を理解できる。 2. 援助を必要とする対象者の心理的問題について理解し、その理解の方法について説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 臨床心理学概説 | 城下 |
| 第2回 | パーソナリティ（人格理論） | 城下 |
| 第3回 | 異常心理・ストレス、防衛機制 | 城下 |
| 第4回 | 発達 | 城下 |
| 第5回 | 心理アセスメント① | 城下 |
| 第6回 | 心理アセスメント② | 城下 |
| 第7回 | 心理療法① | 城下 |
| 第8回 | 心理療法②・まとめ | 城下 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（演習・出席） （ 80%） （ %） （ %） （ 20%） （ %） （ %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 可能な範囲で確認テストや演習なども取り入れながら行います。積極的な参加を望みます。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 系統看護学講座 基礎分野 心理学（医学書院） その他、毎回授業の際に資料を配布予定。 |
| 参考書 | 必要時に適宜紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 画像診断学1 (中枢) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 中野 友輝 (所属 長崎医療センター 放射線科) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) 放射線科医師として臨床で押さえておくべき中枢神経画像診断を解説する | | | | |
| 科目担当者 | 中野 友輝 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | CT・MRI の基本を学ぶ |
| 授業の到達目標 | CT・MRI の基本的な正常解剖を理解し、病変の初歩的診断ができること。 医療チームの一人として CT や MRI から患者さんの病態をある程度把握できること。 |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | CT・MRI の画像の特徴 | 中野 |
| 第2回 | CT・MRI の基本的な正常解剖 | 中野 |
| 第3回 | 疾患の特徴と画像診断 (脳血管障害) | 中野 |
| 第4回 | 〃 (脳腫瘍) | 中野 |
| 第5回 | 〃 (頭部外傷) | 中野 |
| 第6回 | 〃 (感染・脱髄疾患) | 中野 |
| 第7回 | 〃 (眼窩内病変) | 中野 |
| 第8回 | 〃 (脊椎・脊髄病変) | 中野 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 画像診断は病気の診断だけでなく、患者さんの病態を把握するためにも非常に重要です。 医療現場での患者さんの状態理解に役立つと思います。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------------|
| 教科書 | わかりやすい脳脊髄の MR・CT / 診断のポイントと症例集 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---------------------------------------|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 画像診断学2（整形） | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 木村 和也（ 諫早記念病院 整形外科 医師 ） | | | | |
| | （実務経験：有） 整形外科医として臨床現場の経験をもとに指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | 木村 和也 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 骨軟部疾患の画像診断（第2版）に沿って講義をすすめる。 |
| 授業の到達目標 | 1. 整形外科主要疾患の理解 2. 将来現場で使える画像読解の基礎づくり |

| 授業計画 | | |
|------|--------|-----|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 股関節 | 木村 |
| 第2回 | 膝関節 | 木村 |
| 第3回 | 足関節・足部 | 木村 |
| 第4回 | 肩関節 | 木村 |
| 第5回 | 肘関節 | 木村 |
| 第6回 | 手関節・手部 | 木村 |
| 第7回 | 脊椎 | 木村 |
| 第8回 | 骨髄 | 木村 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（ ） （100%） （ %） （ %） （ %） （ %） （ %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 骨格標本と画像を比較する |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|----------------|
| 教科書 | 骨軟部疾患の画像診断 第2版 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | リハビリテーション栄養学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 山口 滉大 (長崎北病院) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとにリハ栄養の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 山口 滉大 (長崎北病院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 栄養素の摂取、消化、吸収、代謝、排泄の基本を理解するとともに、栄養管理を要する対象者に対するリハビリテーションに必要な栄養学的視点を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1. リハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。 2. 栄養状態と運動療法の関係について理解し、各病期に応じた特徴を説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション (シラバスの説明)、リハ栄養とは | 山口 |
| 第2回 | 低栄養とサルコペニア・フレイル | 山口 |
| 第3回 | 低栄養の評価 (体組成評価・嚥下評価) | 山口 |
| 第4回 | エネルギー消費量と必要量について | 山口 |
| 第5回 | エネルギー収支と栄養介入 | 山口 |
| 第6回 | 栄養状態を考慮したリハビリテーション① (急性期) | 山口 |
| 第7回 | 栄養状態を考慮したリハビリテーション② (回復期・生活期) | 山口 |
| 第8回 | 演習課題 (事例検討)、総括 | 山口 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 グループ演習では、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 適宜、資料を配布する。 |
| 参考書 | PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養 医歯薬出版 よくわかる専門基礎講座 栄養学 金原出版 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | リハビリテーション概論 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口将大（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| | （実務経験：有） 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口将大、桑原由喜、中尾佳布（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | リハビリテーションの概念・理念・定義を理解したうえで、日本における医学的リハビリテーションの展開を各々の視点から学ぶ。他職種の専門性の理解、チーム医療、他職種協業について体験し、学習する。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションにおける療法士の位置づけや役割を理解できる 2. チームアプローチ、他職種協業について説明できる 3. 障害像を把握した上で、必要な評価を選択し、情報を得ることができる 4. 症例の問題点を抽出し、発表できる |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|--------------------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション、症例紹介 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第2回 | 症例の情報収集 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第3回 | 症例の障害像把握と必要な評価の選択 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第4回 | 統合と解釈 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第5回 | 問題点抽出 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第6回 | リハゴール設定 | 橋口・桑原・中尾 |
| 第7回 | 症例検討会（発表） | 橋口・桑原・中尾 各2年生担任 |
| 第8回 | 同上 | 橋口・桑原・中尾 各2年生担任 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(発表) (%) (%) (%) (%) (50 %) (50 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 1～6回はグループワークで進めます。将来、チーム医療の一員として働くことを考え、積極的な態度と責任ある行動を望みます。テキストやインターネット等を活用し、各職種の情報収集～治療までの基本的な流れを復習しておくこと。 |
| 履修条件 | これから専門職を目指すものとしての心構えをしっかりとった受講態度を求めます。また、社会人、医療人を目指すものとして、相応しい取り組みを求めます。 |

| | |
|-----|----------|
| 教科書 | 必要なものを持参 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 臨床運動学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） （実務経験：有）回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。障がい児・者へのリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | | | | | |
|---------------|---|------------------------------|--|--|--|
| 授業の概要 (主題) | 運動学で学習した内容を整理し理解を深める。 理学療法士として最も必要なヒト（健常者）の姿勢分析、動作分析および歩行分析について演習を通して学習する。 | | | | |
| 授業の到達目標 | 一般 目標 | ①健常者の姿勢・基本動作および歩行を理解する | | | |
| | | ②姿勢・動作および歩行の観察・分析手法を理解する | | | |
| | | ③異常歩行や異常動作を理解する | | | |
| | 行動 目標 | ①姿勢・動作および歩行を運動学的・運動力学的に説明できる | | | |
| | | ②姿勢・動作および歩行を観察し記録できる | | | |
| | | ③異常歩行や異常動作を観察し記録できる | | | |
| | | ④機器を用いた運動分析を体験する | | | |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 動作分析の実際① 歩行・動作時の現象とその解釈 | 町田 |
| 2 | 動作分析の実際② 歩行・動作時の現象とその解釈 | 町田 |
| 3 | 動作分析の実際③ 歩行・動作時の現象とその解釈 | 町田 |
| 4 | 動作分析の実際④ 歩行・動作時の現象とその解釈 | 町田 |
| 5 | 理学療法評価における動作観察と動作分析 | 町田 |
| 6 | 歩行の観察・分析の練習 ①-1 | 町田 |
| 7 | 歩行の観察・分析の練習 ①-2 | 町田 |
| 8 | 歩行の観察・分析の練習 ②-1 | 町田 |
| 9 | 歩行の観察・分析の練習 ②-2 | 町田 |
| 10 | 歩行の観察・分析の練習 ③-3 | 町田 |
| 11 | 歩行の観察・分析の練習 ③-4 | 町田 |
| 12 | 動作の観察・分析の練習 1 | 町田 |
| 13 | 動作の観察・分析の練習 2 | 町田 |
| 14 | 動作解析に用いられる機器について | 町田 |
| 15 | まとめ | 町田 |

| 科目名 | 臨床運動学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
|---------------------------|---|------|------|---|----|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技口頭試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート(課題) (減点最大 10%) <input type="checkbox"/> その他 | | | | |
| 準備学習 学習への アドバイス | <p>【使用機器】 PC, プロジェクター (授業開始までに視聴覚機器を準備してください)</p> <p>【準備】 各自、<u>・A4サイズの2穴ファイルを2冊準備すること</u></p> <p style="padding-left: 40px;">・配布資料綴じ用 ・課題学習綴じ用 (課題提出用)</p> <p style="padding-left: 40px;">・A4サイズのクリップボードを準備すること</p> <p style="padding-left: 40px;">・演習でプリントに記録をとります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎知識として、解剖学・運動学・生理学を復習しましょう。 2. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。資料は必ずファイリングし、教科書や配布資料を毎回必ず持参してください。 3. 演習を行う際は、ジャージ等動きやすい服装を必ず準備してください。 4. 必要に応じて課題を課します。<u>期限遅れ、未提出は最大10%の減点とします。</u> 5. 講義後は十分な復習を行ってください。 6. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 7. 授業中わからないことは積極的に質問してください。 8. 休み時間、放課後の個別の質問等も歓迎します。 9. 授業で使用しないもの (スマホ、飲料・食料等) はバッグ等に入れておいてください。 ※ただし、スマホやPCなどは学習のため使用を許可した場合を除く 10. 身体に何らかの疾患、ケガ、体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 11. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。 <p>●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。</p> | | | | |
| 履修条件 | 履修条件はありません。必修科目であり、授業には連続性があるので出席してください。 | | | | |
| 教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 第7版：藤沢宏幸他 (編著)，医歯薬出版 ・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学第2版，石川朗他 (編)，中山書店 ・観察による歩行分析，Kirsten Gotz-Neumann (著) 月城慶一他 (訳)，医学書院 | | | | |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析，高橋 正明 (編)，医学書院 ・実践！動作分析 第2版，上杉雅之 (監) 西守隆 (編著)，医歯薬出版 <p>その他、必要時講義にて紹介する</p> | | | | |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 病態運動学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有）病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに病態運動学について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 理学療法においては、病態の理解とそれに基づく機能障害と運動的制限の評価が治療手段を想起する起源となる。本講義は、一連の理学療法プロセスを背景に、運動学という学問的手段を使って、疾病と運動障害を理解することである。 |
| 授業の到達目標 | 1.運動学および病態運動学における、運動学と運動力学、生体活動の関連性を理解できる。 2.病態が与える姿勢、運動、動作への影響の概略を理解できる。 3.病態運動学の分析対象である機能障害・機能的制限・活動レベルを理解できる。 4.様々な疾患から生じる運動制限の臨床的特長を理解できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|-----|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 肩関節の機能とその障害（1） | 橋口 |
| 第2回 | 肩関節の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第3回 | 肘関節・前腕の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第4回 | 肘関節・前腕の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第5回 | 手関節の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第6回 | 手関節の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第7回 | 股関節の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第8回 | 股関節の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第9回 | 膝関節の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第10回 | 膝関節の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第11回 | 足関節の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第12回 | 足関節の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第13回 | 脊柱の機能とその障害（1） | 〃 |
| 第14回 | 脊柱の機能とその障害（2） | 〃 |
| 第15回 | 総括 | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 復習をしっかりと行うこと。 |
| 履修条件 | 講義中の私語や携帯電話の使用は減点の対象となるため注意して下さい。 |

| | |
|-----|---------------------------|
| 教科書 | 標準理学療法学 専門分野 「病態運動学」 医学書院 |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 文献研究 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験：有) 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 文献を調べ、文献の全編の内容を要約し、要約した内容をプレゼンテーションする。 |
| 授業の到達目標 | 1. 興味・関心の高い文献を調べ、内容を理解できる。 2. 内容を要約し、適切なレジュメを作成できる。 3. 要約したものを、第三者に伝えることができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション (シラバスの説明)、情報収集と要約 | 橋口 |
| 第2回 | レジュメ作成 | 橋口 |
| 第3回 | レジュメ作成 | 橋口 |
| 第4回 | 発表 | 橋口 |
| 第5回 | 発表 | 橋口 |
| 第6回 | 発表 | 橋口 |
| 第7回 | 発表 | 橋口 |
| 第8回 | まとめ | 橋口 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(発表) (%) (%) (%) (%) (30%) (70 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 1. 他の人と重複しないように指定された雑誌から文献を選択。 ①理学療法ジャーナル ②理学療法 2. 文献(全文)のコピー1部を橋口へ提出。 3. レジュメ形式(別紙)に準じてプリントアウトしたものを、橋口に提出。 4. 内容を十分理解し、質問等へ適切に対応できるようにすること。 5. 発表時間：15分 質疑応答：5分程度 20分程度/人 時間に余裕があれば、発表文献に関する補足説明などを行う。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | |
| 参考書 | 標準理学療法学(専門分野) 理学療法研究法 第3版 医学書院 最新理学療法講座 理学療法研究法 医歯薬出版 |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 理学療法評価学 2 (No.1) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 小谷泉 (長崎リハビリテーション学院専任講師) | | | | | | |
| | (実務経験: 有・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに理学療法評価学実習 2 の指導にあたる。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 小谷泉 (長崎リハビリテーション学院)、早井あかね (長崎リハビリテーション学院) | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 6 | 時間数 | 90 |

| | |
|---------------|---------------------------------|
| 授業の概要 (主題) | 各種検査法の注意点を理解し、学生同士で実習を行う。【小谷】 |
| 授業の到達目標 | 各種検査法の注意点を理解し、正確に説明、実施ができる。【小谷】 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|---------------|----|----|------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 知覚検査① | 小谷 | 13 | 整形外科疾患検査—下肢①— | 小谷 |
| 2 | 知覚検査② | 〃 | 14 | 整形外科疾患検査—下肢②— | 〃 |
| 3 | 深部腱反射・病的反射① | 〃 | 15 | 整形外科疾患検査—脊柱、体幹①— | 〃 |
| 4 | 深部腱反射・病的反射② | 〃 | 16 | 整形外科疾患検査—脊柱、体幹②— | 〃 |
| 5 | 筋トーンス検査① | 〃 | 17 | 片麻痺機能検査① | 〃 |
| 6 | 筋トーンス検査② | 〃 | 18 | 片麻痺機能検査② | 〃 |
| 7 | バランステスト① | 〃 | 19 | 脳神経検査① | 〃 |
| 8 | バランステスト② | 〃 | 20 | 脳神経検査② | 〃 |
| 9 | 協調性検査① | 〃 | 21 | その他① | 〃 |
| 10 | 協調性検査② | 〃 | 22 | その他② | 〃 |
| 11 | 整形外科疾患検査—上肢①— | 〃 | 23 | まとめ | 〃 |
| 12 | 整形外科疾患検査—上肢②— | 〃 | 24 | | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 検査・測定に必要な解剖学、運動学、生理学について復習しておくようにしてください。 【小谷】 |
| 履修条件 | 実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい。 |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 標準理学療法学 理学療法評価学 (医学書院) 【小谷】 ベッドサイドの神経の診かた (南山堂) 【小谷】 |
| 参考書 | 必要時、講義にて紹介する。 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法評価学 2 (No.2) | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院専任講師) | | | | |
| | (実務経験: <u>有</u> ・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに理学療法評価学実習 2 の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 早井あかね (長崎リハビリテーション学院) 小谷泉 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 6 |
| | | | | 時間数 | 90 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法を実施するにあたって必要な評価の知識および技術を習得する |
| 授業の到達目標 | 1. 形態測定、関節可動域測定 (ROM)、徒手筋力検査 (MMT) を正確に実施できる 2. アセスメントの考え方を学ぶ |

| 授業計画 | | | | | |
|------|---------------------|----|----|------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | バイタル測定 | 早井 | 13 | MMT 実習 (総論・頸部の筋) | 早井 |
| 2 | バイタル測定 | 〃 | 14 | MMT 実習 (頸部&体幹の筋) | 〃 |
| 3 | 形態測定実習 (上肢周径・下肢周径) | 〃 | 15 | MMT 実習 (上肢の筋) | 〃 |
| 4 | 形態測定実習 (上肢長・下肢長) | 〃 | 16 | MMT 実習 (上肢の筋) | 〃 |
| 5 | ROM 実習 (肩甲帯) | 〃 | 17 | MMT 実習 (上肢の筋) | 〃 |
| 6 | ROM 実習 (肩関節) | 〃 | 18 | MMT 実習 (上肢の筋) | 〃 |
| 7 | ROM 実習 (肘関節・手関節・手指) | 〃 | 19 | MMT 実習 (下肢の筋) | 〃 |
| 8 | ROM 実習 (肘関節・手関節・手指) | 〃 | 20 | MMT 実習 (下肢の筋) | 〃 |
| 9 | ROM 実習 (股関節) | 〃 | 21 | MMT 実習 (下肢の筋) | 〃 |
| 10 | ROM 実習 (膝関節・足関節・足部) | 〃 | 22 | MMT 実習 (下肢の筋) | 〃 |
| 11 | ROM 実習 (体幹) | 〃 | 23 | まとめ | 〃 |
| 12 | ROM 実習 (別法・復習) | 〃 | 24 | | 〃 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 正確な評価を行うために骨や筋などの解剖学を復習すること。 |
| 履修条件 | 実技中心の授業の為、動きやすい服装が望ましい (ジャージ・ユニフォームなど)。 爪や髪長さ、装飾品など実習に行く際の身だしなみを意識すること。 教科書、検査道具等の忘れものがないようにすること。 |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版社) PT・OT のための測定評価 DVD Series1 ROM 測定 (三輪書店) 標準理学療法学 理学療法評価学 (医学書院) |
| 参考書 | 必要時、講義にて紹介する。 |

| | | | | | |
|--------------------|---|-------|-------|-----|-----|
| 科目名 | 理学療法評価学 3 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 町田 勝広 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| | (実務経験: <u>有</u> ・無) リハビリ専門病院にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに理学療法士として理解しておくべき画像の診かたについて指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 町田 勝広 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| | 恒任 章 (つねとう内科・循環器内科 院長) | | | | |
| | 吉永 龍史 (長崎医療センター 理学療法士) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 2 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |
| 授業の概要 (主題) | 単純 X 線・CT・MRI・超音波画像のみかたを学ぶ。 心電図] 理学療法に必要な、心電図や循環器疾患について学習する | | | | |
| 授業の到達目標 | 理学療法士として単純 X 線画像・超音波・CT・MRI から患者の病態をある程度把握できること。(町田) | | | | |
| | 国家試験合格、かつリハビリテーションの臨床現場において必要な、心電図や循環器疾患について重要な知識を習得する。(恒任) | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回 数 | 内 容 | | | | 担 当 |
| 1 | 画像診断の基礎<単純 X 線・CT・MRI>正常画像 | | | | 町田 |
| 2 | 画像診断の基礎<超音波画像>正常画像 | | | | 町田 |
| 3 | 運動器疾患の画像所見と臨床所見① | | | | 町田 |
| 4 | 運動器疾患の画像所見と臨床所見② | | | | 町田 |
| 5 | 中枢神経疾患 (主に脳血管疾患) の画像所見と臨床所見① | | | | 町田 |
| 6 | 中枢神経疾患 (主に脳血管疾患) の画像所見と臨床所見② | | | | 町田 |
| 7 | その他の画像所見と臨床所見 | | | | 町田 |
| 8 | 演習 | | | | 町田 |
| 9 | 演習 | | | | 町田 |
| 10 | 心臓の構造と機能・モニター心電図の基本 | | | | 恒任 |
| 11 | 心電図の見方 | | | | 恒任 |
| 12 | 心電図の見方 | | | | 恒任 |
| 13 | 心電図の見方 | | | | 恒任 |
| 14 | 心電図の見方 | | | | 恒任 |
| 15 | 心臓リハビリテーションの実際 | | | | 吉永 |
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験* <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(演習/課題) (100%)* (%) (%) (%) (%) 未提出 (最大-10%) | | | | |
| 準備学習 | 【使用機器】 プロジェクター (授業開始までに視聴覚機器を準備してください) (PC は持参します) | | | | |
| 学習へのアドバイス | 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの (飲料・食料等) はバッグ等に入れておいてください。 1. 骨・関節、筋・神経、内臓の解剖と運動器疾患 (整形外科疾患)・中枢神経疾患 (脳血管疾患) についてテキストの確認と復習を積極的に行いましょう。 2. 教科書と配布資料で講義を行います。 3. 適時課題を課します。提出期限遅れ、未提出は最大 10%の減点とします。 | | | | |

| | |
|-----------------------|---|
| <p>学習への アドバイス</p> | <p>4. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。</p> <p>5. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。</p> <p>●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。演習を行いながら授業をすすめます。不要な私語は慎んで、積極的に授業に取り組んでください。</p> <p>●心電図を苦手にならないため平易な教科書を中心に引用するが、国家試験合格にはワンランク上の知識が必要であり講義で補足する。資料に積極的に書き込み復習すると良い。</p> |
| <p>履修条件</p> | <p>演習・課題学習と解剖学、臨床医学の復習に取り組むこと（町田）</p> <p>必修科目であり、必ず出席すること。正当な事由なき欠席は、減点対象となりうる（恒任）</p> |
| <p>教科書</p> | <p>わかりやすい脳脊髄のMR・CT（新興医学出版社）</p> <p>骨軟部疾患の画像診断第2版（Gakken）</p> |
| <p>参考書</p> | <p>標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院）</p> <p>プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版（医学書院）</p> <p>からだが見える-人体の構造と機能-（メディックメディア）</p> <p>病が見える 7 脳・神経（メディックメディア）</p> |

*理学療法評価学3の成績は、恒任先生50%、町田50%の合算とする

| | | | | | |
|---------|---|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法評価学演習 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) (実務経験:有) 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに実習前に必要な知識・技術について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大ほか理学療法学科専任教員 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実技 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | これまでに習得した知識・技術を統合して、実際の臨床場面を想定した検査測定を学習・体験する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 医療人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 対象者に必要な理学療法評価項目を正確に実施することができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------|------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション/療法士面接・バイタル測定 | 専任教員 |
| 第2回 | 神経系検査測定① (ブルンストローム、腱反射) | 専任教員 |
| 第3回 | 神経系検査測定② (感覚検査、協調性検査) | 専任教員 |
| 第4回 | 神経系検査測定③ (筋緊張) | 専任教員 |
| 第5回 | 形態測定 | 専任教員 |
| 第6回 | MMT/ROM-T | 専任教員 |
| 第7回 | 移乗動作 | 専任教員 |
| 第8回 | OSCE 振り返り | 専任教員 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (50%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 実技等、何度も繰り返し練習を行うこと。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-------------------|
| 教科書 | 必要に応じて教科書を準備すること。 |
| 参考書 | 特になし |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 臨床推論演習 1 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子（長崎リハビリテーション学院） （実務経験：有・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに臨床推論に必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 夕子、小谷 泉（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 臨床推論の流れについて理解し、模擬患者を通して体験する |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床推論の流れについて説明できる。 2) 患者情報をもとに必要な評価項目が抽出できる。 3) 患者情報をもとに評価結果の統合と解釈ができる。 4) 患者情報をもとにゴール設定ができる。 |

| 授業計画 | | |
|-------|-------------------|-------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 臨床推論について | 中尾・小谷 |
| 第 2 回 | グループワーク①（評価項目の抽出） | 中尾・小谷 |
| 第 3 回 | グループワーク②（統合と解釈） | 中尾・小谷 |
| 第 4 回 | グループワーク③（統合と解釈） | 中尾・小谷 |
| 第 5 回 | グループワーク④（ゴール設定） | 中尾・小谷 |
| 第 6 回 | グループワーク⑤（発表準備） | 中尾・小谷 |
| 第 7 回 | グループ発表 | 中尾・小谷 |
| 第 8 回 | 振り返り | 中尾・小谷 |

| | |
|-------------------|--|
| 成績評価の方法 | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 <ul style="list-style-type: none"> • 参加状況 • 発表 |
| （評価の基準） | （ %） （ %） （ %） （ %） （20%） （80%） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | グループワークで実施します。積極的に参加し、実りあるものとしてください。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|------------------------|
| 教科書 | 評価学や各理学療法学の講義で使用するテキスト |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|--------------------|---|-------|------|---------------------|----|
| 科目名 | 義肢学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 町田 勝広 (長崎リハビリテーション学院 専任講師) | | | | |
| | (実務経験：有) 病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。回復期、生活期における下肢切断者リハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 町田 勝広 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |
| 授業の概要 (主題) | 四肢切断者と義肢に関する基礎的知識と義肢の適合判定について理解を深める。 四肢切断者のリハビリテーション及び多職種によるチームアプローチを理解する。 | | | | |
| 授業の到達目標 | 1. 義肢を適切に扱うことができる。 2. 義肢の適合判定およびその異常に対する対処方法を説明できる。 3. 切断者に対する評価および理学療法を説明できる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 義肢学断総論 | 町田 | 9 | 下腿義足アライメント② | 町田 |
| 2 | 下肢切断者の理学療法評価 | | 10 | その他の義足の種類と適合評価 | |
| 3 | 大腿義足ソケットの種類と適合評価 | | 11 | 継手の種類とその設定調整方法 | |
| 4 | 大腿義足アライメント① | | 12 | 下肢切断者に対する理学療法プログラム① | |
| 5 | 大腿義足アライメント② | | 13 | 下肢切断者に対する理学療法プログラム② | |
| 6 | 大腿義足アライメント③ | | 14 | 下肢切断者に対する理学療法プログラム③ | |
| 7 | 下腿義足ソケットの種類と適合評価 | | 15 | まとめ | |
| 8 | 下腿義足アライメント① | | | | |
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技・口頭試問 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート・課題 未提出減点 (10%) <input type="checkbox"/> その他 (%) | | | | |
| 準備学習 | 【使用機器】 プロジェクター (授業開始までに視聴覚機器を準備してください) PC は持参します 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの (飲料・食料等) はバッグ等に入れておいてください。 | | | | |
| 学習へのアドバイス | 1. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。 2. 義肢を実際に手にとって学びましょう。注意点として、義肢は高価であり、可動部でケガをすることがあるので、必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 3. 実技の演習も予定しています。実技演習では四肢を露出する必要があるため、必ずジャージや T シャツ、短パン、スパッツなど動きやすく四肢を露出しやすい服装で出席してください。 4. 身体に何らかの疾患、ケガ、体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 5. 基礎知識として、骨・筋の解剖学、運動学は必須です。解剖学・運動学・生理学を復習しましょう。 6. 適時課題を課します。提出期限遅れ、未提出は最大 10% の減点とします。 7. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。 8. 義肢を実際に扱う際は必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 9. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。 ●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。 | | | | |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 | | | | |
| 教科書 | 「PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版」(監)高田治実、(編)豊田輝ほか、羊土社 | | | | |
| 参考書 | ・義肢装具のチェックポイント、医学書院 ・15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学、石川朗(編)、中山書店 ・切断と義肢、澤村誠志(著)、医歯薬出版 ・理学療法学テキストVI義肢装具学 第2版、千住秀明(監)、大峯三郎ほか(編)、神陵文庫 ・基礎運動学 第6版補訂、中村隆一ほか(著)、医歯薬出版 | | | | |

| | | | | | |
|--------------------|--|-------|------|-----------------|----|
| 科目名 | 装具学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 町田 勝広 (長崎リハビリテーション学院 専任講師) (実務経験:有) 回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。回復期、生活期における運動器疾患、神経系疾患のリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 町田 勝広 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 時間数 | 30 | | | | |
| 授業の概要 (主題) | 装具に関する基礎的知識と適合判定について理解を深める 疾患別の装具療法について理解する。 | | | | |
| 授業の到達目 標 | 1. 装具の名称および目的と分類が説明できる 2. 各装具の構成部品と機能の説明およびチェックアウトができる。 3. 障害・疾患・症状に適応となる装具について列挙、説明ができる | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 装具学総論 | 町田 | 9 | 疾患別⑥ 脊柱側彎症の装具 | 町田 |
| 2 | 下肢装具の構成部品とその適合判定 | | 10 | 疾患別⑦ 小児疾患の装具 | |
| 3 | 足継手の制御機構 | | 11 | 疾患別⑧ 関節リウマチの装具 | |
| 4 | 疾患別① 脳卒中片麻痺の装具 | | 12 | 靴型装具 | |
| 5 | 疾患別② 対麻痺の装具 | | 13 | 義肢装具の給付制度 | |
| 6 | 疾患別③ 整形外科的装具 | | 14 | 短下肢装具装着における歩行分析 | |
| 7 | 疾患別④ 頸・体幹の装具 | | 15 | まとめ | |
| 8 | 疾患別⑤ 末梢神経障害の装具 | | | | |
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート・課題 提出遅れ/未提出減点 (最大-10%) <input type="checkbox"/> その他 (%) | | | | |
| 準備学習 | 【使用機器】 プロジェクター (授業開始までに視聴覚機器を準備してください) PC は持参します 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの (飲料・食料等) はバッグ等に入れておいてください。 | | | | |
| 学習への アドバイス | 1. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。 2. 装具を実際に手にとって学びましょう。注意点として、装具は高価であり、可動部でケガをすることがあるので、必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 3. 実技の演習では動きやすく四肢を露出しやすい服装で出席してください。身体に何らかの疾患、ケガ、体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 4. 基礎知識として、骨・筋の解剖学、運動学は必須です。解剖学・運動学・生理学を復習しましょう。 5. 適時課題を課します。提出期限遅れ、未提出は最大10%の減点とします。 6. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。 7. 義肢を実際に扱う際は必ず教員の指示に従い、丁寧に扱ってください。 8. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。 ●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。 | | | | |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 | | | | |
| 教科書 | 「PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版」(監)高田治実、(編)豊田輝ほか、羊土社 | | | | |
| 参考書 | ・義肢装具のチェックポイント、医学書院 ・15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学、石川朗(編)、中山書店 ・切断と義肢、澤村誠志(著)、医歯薬出版 ・理学療法学テキストVI義肢装具学 第2版、千住秀明(監)、大峯三郎ほか(編)、神陵文庫 ・基礎運動学 第6版補訂、中村隆一ほか(著)、医歯薬出版 | | | | |

| | | | | | | |
|---------|--|-------|---------------|------|-----|-----|
| 科目名 | 義肢装具学演習 | | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院専任講師） | | | | | |
| | （実務経験：○・無）回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。回復期、生活期における義肢・装具を用いたリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | | |
| 科目担当者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院専任講師） 岩木 寛（長崎有菌義肢製作所 義肢装具士） 義肢装具製作所 義肢装具士 | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | 学 年 | 2 |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 学外演習 | 単位数 | 1 | 時間数 |
| | | | | | | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 義肢・装具の構成部品および義肢・装具の製作について理解する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 義肢・装具の目的と分類を理解する。 2. 義肢・装具の構成部品とそのチェックアウトを理解する。 3. 足継手の制御機構を理解する。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|------------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | （講義・演習）義肢・装具制作の実際 | 岩木 |
| 第2回 | （講義・演習）義肢・装具製作の実際 | 岩木 |
| 第3回 | （講義・演習）義肢・装具製作の実際 | 岩木 |
| 第4回 | （講義・演習）義肢・装具製作の実際 | 岩木 |
| 第5回 | （学外演習）義肢装具制作所見学 | 専任講師・義肢装具士 |
| 第6回 | （学外演習）義肢装具制作所見学 | 専任講師・義肢装具士 |
| 第7回 | （演習） | 町田 |
| 第8回 | （演習） | 町田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 ・演習課題（身だしなみ・態度） （ %） （ %） （ %） （ %） （80 %） （20 %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 講義および演習（実習）を行う。演習では石膏ギプスによる採型を行うので半袖シャツ、ハーフパンツなど上下肢を露出できる服装を必ず準備すること。 学外学習時の服装は指示された相応しい服装とし、社会人として医療を学ぶ学生として礼儀正しい態度を心がける事 |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 |
| 教科書 | 必要に応じて資料を配布する PT・OT ビジュアルテキスト 義肢・装具学（羊土社） |
| 参考書 | ・義肢装具のチェックポイント第9版，日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会（監），医学書院 |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|-------|------|-----|-----|----|
| 科目名 | 運動器疾患理学療法学 | | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | |
| 科目担当責任者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | | | |
| | （実務経験：○・無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに運動器疾患を学ぶために必要な基礎知識について講義する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院 専任講師） | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | 学 年 | 2 | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 4 | 時間数 | 60 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 人間の身体運動に関する基本的な知識を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動に関する基本的な用語について理解する。 2. 身体運動に関わるさまざまな法則について理解する。 3. 運動器の構造と機能を理解する。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|----------------------------|----|----|----------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 運動器理学療法総論 | 福田 | 16 | 関節リウマチの理学療法実習① | 〃 |
| 2 | 肩関節周囲炎 | 〃 | 17 | 関節リウマチの理学療法実習② | 〃 |
| 3 | 上腕骨内側・外側上顆炎 | 〃 | 18 | 関節リウマチの理学療法実習③ | 〃 |
| 4 | 骨折 | 〃 | 19 | 関節リウマチの理学療法実習④ | 〃 |
| 5 | 変形性関節症 | 〃 | 20 | 下肢帯障害の理学療法実習① | 〃 |
| 6 | 脊椎疾患(ヘルニア・脊柱管狭窄症) | 〃 | 21 | 下肢帯障害の理学療法実習② | 〃 |
| 7 | スポーツ障害(半月板損傷・ACL 損傷・足関節捻挫) | 〃 | 22 | 下肢帯障害の理学療法実習③ | 〃 |
| 8 | 関節リウマチ | 〃 | 23 | 下肢帯障害の理学療法実習④ | 〃 |
| 9 | 上肢帯障害の理学療法実習① | 〃 | 24 | 下肢帯障害の理学療法実習⑤ | 〃 |
| 10 | 上肢帯障害の理学療法実習② | 〃 | 25 | 下肢帯障害の理学療法実習⑥ | 〃 |
| 11 | 上肢帯障害の理学療法実習③ | 〃 | 26 | スポーツ障害の理学療法実習① | 〃 |
| 12 | 上肢帯障害の理学療法実習④ | 〃 | 27 | スポーツ障害の理学療法実習② | 〃 |
| 13 | 上肢帯障害の理学療法実習⑤ | 〃 | 28 | スポーツ障害の理学療法実習③ | 〃 |
| 14 | 骨折の理学療法実習① | 〃 | 29 | スポーツ障害の理学療法実習④ | 〃 |
| 15 | 骨折の理学療法実習② | 〃 | 30 | 総括 | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (60%) (40%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 実技項目が多くありますので、動きやすい服装が望ましい。 グループワークがありますので協力して講義に臨むこと。 講義内で症例検討を行う場合があるので、Keynote の使用方法を再度確認しておくこと |
| 履修条件 | 積極的に取り組み、私語は慎み真摯な態度を望む。 |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 教科書 | 整形外科リハビリテーション（羊土社） 運動療法学テキスト(南江堂) |
| 参考書 | 配布資料あり |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------|------|------|-----|----|
| 科目名 | 脳血管疾患理学療法学 | | | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | | | |
| | （実務経験：☑有・☐無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに脳卒中患者に対する基本的な理学療法について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 中尾 夕子 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | | 学 年 | 2 |
| 必修／選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 4 | 時間数 | 60 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | 中枢神経障害に対する基本的な理学療法について学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経の構造と機能、病態生理を理解する。 2. 脳卒中の障害像とそれに対する基本的な理学療法の進め方を理解する。 3. 脳卒中の障害に対する理学療法の知識・技術を理解する。 4. 脳卒中片麻痺患者に対する基本動作指導を実施できる。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|----------------|----|----|--------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 中枢神経系の構造と機能① | 中尾 | 16 | 運動失調② | 中尾 |
| 2 | 中枢神経系の構造と機能② | 中尾 | 17 | 姿勢定位障害 | 中尾 |
| 3 | 脳卒中の病態① | 中尾 | 18 | 歩行障害① | 中尾 |
| 4 | 脳卒中の病態② | 中尾 | 19 | 歩行障害② | 中尾 |
| 5 | 脳画像① | 中尾 | 20 | 歩行障害③ | 中尾 |
| 6 | 脳画像② | 中尾 | 21 | 高次脳機能障害① | 中尾 |
| 7 | 脳卒中の回復メカニズム | 中尾 | 22 | 高次脳機能障害② | 中尾 |
| 8 | 脳卒中の障害構造とリスク管理 | 中尾 | 23 | 脳卒中後疼痛 | 中尾 |
| 9 | 運動麻痺① | 中尾 | 24 | 片麻痺者の基本動作指導① | 中尾 |
| 10 | 運動麻痺② | 中尾 | 25 | 片麻痺者の基本動作指導② | 中尾 |
| 11 | 運動麻痺③ | 中尾 | 26 | 回復期の理学療法 | 中尾 |
| 12 | 感覚障害 | 中尾 | 27 | ケーススタディ① | 中尾 |
| 13 | 異常筋緊張① | 中尾 | 28 | ケーススタディ② | 中尾 |
| 14 | 異常筋緊張② | 中尾 | 29 | ケーススタディ③ | 中尾 |
| 15 | 運動失調① | 中尾 | 30 | まとめ | 中尾 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(課題) (90%) (%) (%) (%) (%) (10%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 中枢神経系の解剖学と脳血管疾患について復習しておいてください。 配布資料がたくさんあるので、ファイルにまとめて保管してください。 |
| 履修条件 | 講義中の私語は慎むこと。実習は動きやすい服装で参加し、積極的に取り組むこと。 課題未提出は定期試験から減点します。 |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学（第3版）／医学書院 病気がみえる⑦脳・神経（第2版）／MEDIC MEDIA |
| 参考書 | 必要に応じて紹介します。 |

| | | | | | | | |
|--------------------|--|-------|---|-------------------|------|-----|----|
| 科目名 | 脊髄神経疾患理学療法学 | | | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） （実務経験：有）回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。回復期、生活期における脊髄損傷者のリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |
| 授業の概要 （主題） | 脊髄神経の疾患の障害像について解剖・運動・生理学的に学ぶ。脊髄損傷者に対する検査測定および基本的リハビリテーションを基に、一次障害、二次障害、生活に対する理学療法アプローチの理論と技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | 一般目標 | ① | 脊髄損傷の障害像を理解する | | | | |
| | | ② | 脊髄損傷の各病期と残存レベルに応じた理学療法評価と治療の過程を理解する | | | | |
| | | ③ | 脊髄損傷者に対する理学療法アプローチの理論的背景を理解する | | | | |
| | 行動目標 | ① | 脊髄損傷の障害像を説明できる | | | | |
| | | ② | 脊髄損傷者の病期および残存機能に応じた理学療法評価と基本的理学療法が説明できる | | | | |
| | | ③ | 脊髄損傷者に対するチームアプローチおよび理学療法アプローチの理論的背景が説明できる | | | | |
| | | ④ | ADL、車いすを中心とした動作の模倣および動作訓練が説明できる | | | | |
| | 授業計画 | | | | | | |
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 | | |
| 1 | 脊柱と脳・脊髄神経の構造と機能 | 町田 | 9 | 回復期の理学療法① 対麻痺者 1 | 町田 | | |
| 2 | 脊髄損傷総論 | | 10 | 回復期の理学療法② 対麻痺者 2 | | | |
| 3 | 脊髄損傷の障害像 | | 11 | 回復期の理学療法③ 四肢麻痺者 1 | | | |
| 4 | 脊髄損傷の障害像 | | 12 | 回復期の理学療法④ 四肢麻痺者 2 | | | |
| 5 | 脊髄損傷者の評価① | | 13 | 脊髄損傷者の生活期のアプローチ① | | | |
| 6 | 脊髄損傷者の評価② | | 14 | 脊髄損傷者の生活期のアプローチ② | | | |
| 7 | 脊髄損傷者の急性期の理学療法① | | 15 | まとめ | | | |
| 8 | 脊髄損傷者の急性期の理学療法② | | 16 | （学外学習）総合せき損センター見学 | | | |
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技口頭試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート（課題） <input type="checkbox"/> その他 （100%） （ % ） （ % ） （%・） （遅れ・未提出減点最大10%） | | | | | | |
| 準備 | 【使用機器】 プロジェクター（授業開始までに視聴覚機器を準備してください） （PCは持参します） | | | | | | |
| 学習へのアドバイス | 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの（飲料・食料等）はバッグ等に入れておいてください。 1. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。 2. 実技の演習も予定しています。身体に何らかの疾患、ケガ、体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 3. 基礎知識として、錐体路、感覚神経路に関係する脊髄の解剖、運動生理、四肢体幹の筋の神経支配、作用は必須です。解剖学・運動学・生理学を復習しましょう。 4. 適時課題を課します。提出期限遅れ、未提出は最大10%の減点とします。 5. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。 | | | | | | |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>6. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。</p> <p>●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。</p> |
| 履修条件 出席 | <p>履修条件はありません。必修科目であり、授業には連続性があるので出席してください。</p> <p>総合せき損センター見学も本科目の出席すべき時間とします。必ず参加すること。</p> |
| 教科書 | <ul style="list-style-type: none"> ・脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版, 岩崎洋 (編), 文光堂 |
| 補助教科書 (指示があった場合は持参) | <ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる 7 脳・神経 第2版, 医療情報科学研究所 (編), メディックメディア. ・標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第4版, 奈良勲 (監), 野村巖 (編), 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂, 中村隆一ほか(著), 医歯薬出版 |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版, Anne M. Gilroy 他(原著), 坂井 建雄(監訳), 医学書院 ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版, 奈良勲 (監), 医学書院 ・田崎義明: ベッドサイドの神経の診かた 第15版. 南山堂 ・中枢神経障害理学療法学テキスト, 細田多穂, 南光堂 ・細田多恵ほか編: 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻 疾患別・理学療法基本プログラム, 協同医書出版 |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|-------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 神経・筋疾患理学療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | | | |
| | （実務経験：☑有・☐無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに神経・筋疾患理学療法学の指導にあたる。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 授業の概要 （主題） | 神経難病に対する評価・理学療法について学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 疾患の特徴的な症状を理解し、症状に応じた理学療法の実践ができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | パーキンソン病の評価 | 小谷 |
| 第2回 | パーキンソン病の理学療法 | 小谷 |
| 第3回 | 運動失調症の評価 | 小谷 |
| 第4回 | 運動失調症の理学療法 | 小谷 |
| 第5回 | 筋ジストロフィー症の評価 | 小谷 |
| 第6回 | 筋ジストロフィー症の理学療法 | 小谷 |
| 第7回 | ALS の評価 | 小谷 |
| 第8回 | ALS の理学療法 | 小谷 |
| 第9回 | 多発性硬化症の評価 | 小谷 |
| 第10回 | 多発性硬化症の理学療法 | 小谷 |
| 第11回 | 多発性硬化症の評価 | 小谷 |
| 第12回 | 多発性硬化症の理学療法 | 小谷 |
| 第13回 | 重症筋無力症、その他の評価 | 小谷 |
| 第14回 | 重症筋無力症、その他の理学療法 | 小谷 |
| 第15回 | まとめ | 小谷 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | ☑定期試験（70%） ☐実技試験（ %） ☐実習評価（ %） ☐小テスト（ %） ☐レポート（ %） ☑その他（口頭試問）（30%） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 神経内科学で学んだ内容を復習しておいてください。 |
| 履修条件 | 必修科目であるので必ず出席すること。 |

| | |
|-----|---------------------------|
| 教科書 | 系統理学療法学 神経障害系理学療法学（医歯薬出版） |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|-------|------|-----|-----|----|
| 科目名 | 発達障害系理学療法学 | | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 | |
| 科目担当責任者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | | | |
| | （実務経験：有）回復期病院及び障害者施設にて理学療法士として勤務。障がい児・者へのリハビリテーションの経験をもとに指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 町田勝広（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科） | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | | | | 学 年 | 2 | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義・演習 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | | | | | | |
|---------------|------|--|--|--|--|--|
| 授業の概要 (主題) | | <p>出生から乳幼児期までの定型的運動発達について学ぶ。</p> <p>また、正常発達と発達障がいの違いを確認しながら発達障害について理解を深める。</p> <p>さらに、小児疾患に対する理学療法の目標設定、アプローチについて学習する。</p> | | | | |
| 授業の到達目標 | 一般目標 | ①定型的運動発達について理解する | | | | |
| | | ②運動発達障がいの障害像について理解する | | | | |
| | | ③運動発達障がいに対する理学療法評価および理学療法について理解する | | | | |
| | 行動目標 | ①定型的運動発達を説明することができる | | | | |
| | | ②運動発達障がいの障害像を説明できる | | | | |
| | | ③運動発達障がいに対する理学療法評価および理学療法について説明できる | | | | |

| 授業計画 | | | | | |
|------|--------------------|----|----|-----------------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | オリエンテーション, 運動発達の理論 | 町田 | 9 | 脳性麻痺 痙直型 両麻痺の理学療法 | 町田 |
| 2 | 姿勢反射と運動発達 | | 10 | 脳性麻痺 痙直型片麻痺 アテトーゼ型 | |
| 3 | 発達・運動発達の評価と正常運動発達 | | 11 | 子どもの整形外科疾患①二分脊椎, Perthes 病, | |
| 4 | 発達・運動発達の評価と正常運動発達① | | 12 | 子どもの整形外科疾患②发育性股関節形成不全, その他 | |
| 5 | 脳性麻痺総論 | | 13 | 知的障害およびその他の発達障がい児 | |
| 6 | 脳性麻痺 痙直型 四肢麻痺 | | 14 | 子どもの遺伝性疾患 | |
| 7 | 脳性麻痺 痙直型 四肢麻痺の理学療法 | | 15 | まとめ | |
| 8 | 脳性麻痺 痙直型 両麻痺 | | | | |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技口頭試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%・) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(課題) (遅れ・未提出減点最大 10%) <input type="checkbox"/> その他 |
| 準備学習 | <p>【使用機器】 プロジェクター（授業開始までに視聴覚機器を準備してください） （PC は持参します）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始までに着席してテキスト等授業の準備をしましょう。 2. 授業で使用しないもの（飲料・食料等）はバッグ等に入れておいてください。 |
| 学習へのアドバイス | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書を中心に講義を行います。必要に応じて資料を配布します。 2. 実技の演習も予定しています。身体に何らかの疾患, ケガ, 体調不良等により演習に支障があると思う学生は、必ず事前に教員に申し出てください。 |

| | |
|------------------------|--|
| | <p>3. 基礎知識として、錐体路症状、錐体外路症状、反射は必須です。解剖学・運動学・生理学を復習しましょう。</p> <p>4. 適時課題を課します。提出期限遅れ、未提出は最大10%の減点とします。</p> <p>5. 授業中、休み時間、放課後の個別の質問は大歓迎します。</p> <p>6. 講義の進行に支障をきたしていると教員が判断した場合は注意します。繰り返しの注意にもかかわらず改善が見られない場合は退室を命じます。</p> <p>●授業を通して気づきや発見、興味、疑問が湧いてくるよう一緒にがんばりましょう。</p> |
| 履修条件 | 履修条件はありません。ただし、必修科目であり、授業には連続性があるので出席してください。 |
| 教科書 | ・シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版, 細田多穂 (監), 田原弘幸ほか (編), 南江堂. |
| 補助教科書 (指示があった場合は持参) | <p>・病気がみえる 7 脳・神経 第2版, 医療情報科学研究所 (編), デイックメディア.</p> <p>・標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学, 奈良勲 (監), 内山靖 (編), 医学書院.</p> <p>・ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭ほか (著), 南山堂.</p> |
| 参考書 | <p>・理学療法ハンドブック 改訂第4版, 細田多穂 (著・編), 柳澤 健 (編), 協同医書.</p> <p>・理学療法学テキストⅧ こどもの理学療法 第2版, 千住秀明 (監), 田原弘幸 (編), 神陵文庫.</p> |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-----|------|
| 科目名 | 内部障害系理学療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前・後期 |
| 科目担当責任者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科) (実務経験：有) 病院・施設にて理学療法士として勤務。臨床経験をもとに指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口 将大 (長崎リハビリテーション学院) 花田 匡利 (長崎大学病院 理学療法士) 福本 圭 (Body maintenance Joy Trainer 理学療法士) 松添 佐江子 (向陽高校看護専攻科 科長) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実習 | 単位数 | 4 |
| | | 時間数 | 60 | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 運動が呼吸・循環・代謝・消化器系に及ぼす影響を理解させ、運動処方作成の理論と作成方法について理解する。また代表とする疾患について運動処方に基づく運動療法について習得する。 |
| 授業の到達目標 | 1.運動処方について理解できる。 2.内部疾患の評価・運動処方と運動療法について理解できる。 3.呼吸理学療法に必要な胸部画像所見について理解できる。 4.急性期・慢性期における呼吸理学療法について理解できる。 5.周術期理学療法について理解できる。 |

| 授業計画 | | | | | |
|------|----------------|----|----|--------------------------|----|
| 回数 | 内 容 | 担当 | 回数 | 内 容 | 担当 |
| 1 | 運動処方 (各論) ① | 橋口 | 16 | 症例検討① | 橋口 |
| 2 | 運動処方 (各論) ② | 橋口 | 17 | 症例検討② | 橋口 |
| 3 | 糖尿病の評価・運動処方① | 橋口 | 18 | 症例検討発表準備 | 橋口 |
| 4 | 糖尿病の評価・運動処方② | 橋口 | 19 | フィジカルアセスメント | 福本 |
| 5 | 糖尿病の運動療法 | 橋口 | 20 | リスク管理 | 福本 |
| 6 | 循環器疾患の評価・運動処方① | 橋口 | 21 | 呼吸器系疾患の評価 | 花田 |
| 7 | 循環器疾患の評価・運動処方② | 橋口 | 22 | 急性期における呼吸理学療法 | 花田 |
| 8 | 循環器疾患の運動療法 | 橋口 | 23 | 周術期理学療法 | 花田 |
| 9 | 腎疾患の評価・運動処方① | 橋口 | 24 | 慢性期における呼吸理学療法 | 花田 |
| 10 | 腎疾患の評価・運動処方② | 橋口 | 25 | 呼吸理学療法概論 | 花田 |
| 11 | 腎疾患の運動療法 | 橋口 | 26 | 胸部画像所見の見方 | 花田 |
| 12 | 脂質代謝異常の評価・運動処方 | 橋口 | 27 | 急性期呼吸理学療法 (早期離床)、周術期理学療法 | 花田 |
| 13 | 脂質代謝異常の運動療法 | 橋口 | 28 | 慢性期における呼吸理学療法 | 花田 |
| 14 | 末梢循環障害の評価・運動処方 | 橋口 | 29 | 喀痰吸引① | 松添 |
| 15 | 末梢循環障害の運動療法 | 橋口 | 30 | 喀痰吸引② | 松添 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | ■定期試験 (50%) ■実技試験 (50%) □実習評価 () □小テスト () □レポート () □その() () |
| 準備学習 学習へのアドバイス | [橋口] 略語および専門用語が多く、生理学も復習しておく。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | [橋口] Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 メジカルビュー社 [花田] 特にありません |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | スポーツ理学療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 一瀬 浩志 (所属 貞松病院 リハビリテーション科 理学療法士) | | | | |
| | (実務経験:有) 病院内のリハビリテーション業務、スポーツ現場でのサポート経験をもとにスポーツ理学療法学について解説する。 | | | | |
| 科目担当者 | 一瀬 浩志 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 各関節におけるマルアライメントと、その結果生じる応力集中に着目し、病態、評価、リハビリテーションについて座学と実技を行います。 |
| 授業の到達目標 | スポーツ障害に対する評価ができ、復帰のためのリハビリテーションプログラムを立案することができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | スポーツ障害に対するリハビリテーション、総論 | 一瀬 |
| 第2回 | 足部、足関節疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第3回 | 足部、足関節疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第4回 | 足部、足関節疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第5回 | 膝関節の代表的な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第6回 | 膝関節の代表的な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第7回 | 膝関節の代表的な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第8回 | 膝関節の代表的な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第9回 | 腰部疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第10回 | 腰部疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第11回 | 腰部疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第12回 | 腰部疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第13回 | 上肢の代表な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第14回 | 上肢の代表な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第15回 | 上肢の代表な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |
| 第16回 | 上肢の代表な疾患の病態、触診、評価、リハビリテーション | 一瀬 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 解剖学、運動学、整形外科について復習をしておいて下さい。 |
| 履修条件 | 規定の出席日数、定期試験の成績 |

| | |
|-----|---------------------------|
| 教科書 | なし 事前にメールにて配布資料を送付します。 |
| 参考書 | なし |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法治療学特論 (No.1) | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 下田 真太郎 (長崎百合野病院 理学療法士) | | | | |
| | (実務経験 有 無) 2次救急病院の現場で10年以上ウィメンズヘルス理学療法に携わっています。 妊娠・産後の運動器的なトラブルに介入し、整形外科術後の理学療法では性差を考えながら介入しています。 | | | | |
| 科目担当者 | 下田 真太郎、山本 真司 (日浦病院 理学療法士) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | 時間数 | 30 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 女性の健康についてライフステージ別に学ぶ。 スポーツとウィメンズヘルスについて学ぶ。 女性の骨盤帯について学ぶ。 妊娠・出産について理学療法士が介入できることを学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1. スポーツでのライフステージ別の注意点を知る 2. 産前産後の理学療法を知る 3. 解剖学・運動学の知識をもとにウィメンズヘルス理学療法が理解ができる 4. PNF や腰痛に対しての理学療法などの手技を経験する |

| 授業計画 | | |
|------|-------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | ウィメンズヘルスケア概論 | 下田 |
| 第2回 | スポーツとウィメンズヘルスケア | 下田 |
| 第3回 | スポーツとウィメンズヘルスケア | 下田 |
| 第4回 | 整形外科疾患とウィメンズヘルスケア | 下田 |
| 第5回 | 整形外科疾患とウィメンズヘルスケア | 下田 |
| 第6回 | 産前産後の理学療法概論 | 下田 |
| 第7回 | 産前産後の理学療法 | 下田 |
| 第8回 | 産前産後の理学療法 | 下田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他(講義貢献度) (80%) (%) (%) (%) (%) (20%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 評価・治療実技を行う予定です。動きやすい格好をお願いします。ジーンズ・スカートは控えてください。解剖書を持参すること。授業前は爪を切っておくこと |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|----------------------------|
| 教科書 | 資料を配布します。引用図書・文献は講義中に示します。 |
| 参考書 | 授業にて紹介する |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法治療学特論 (No.2) | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 山本 真司 (日浦病院 リハビリテーション部 理学療法士) (実務経験* 有 無) | | | | |
| | 病院に勤務し、地域リハビリテーション領域において、高齢者の介護予防および生活支援に従事してきた。これらの実務経験を生かし、評価から介入に至る思考過程や実際の症例をもとに、実践的な授業を行う。 | | | | |
| 科目担当者 | 山本 真司、下田真太郎 (長崎百合野病院 理学療法士) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| | | | | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 高齢者の自立支援および要介護状態の予防・重度化防止を目的とした介護予防について、理学療法士の視点から理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護予防の目的および生活期における理学療法士の役割を説明できる 2. フレイルおよび高齢者の身体機能評価を理解し、基本的な評価が実施できる 3. 転倒リスクを身体機能および環境因子の両面から分析できる 4. ICF の枠組みを用いて、対象者の生活課題を整理し、統合的に解釈できる 5. 高齢者の個性を踏まえた介護予防プログラムを立案できる 6. 対象者が継続可能な介護予防の工夫を考慮した支援を提案できる 7. グループワークを通して他者と協働し、自らの考えを論理的に整理し発表できる |

| 授業計画 | | |
|-------|---|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 介護予防の全体像と理学療法士の役割 (生活期における支援の視点) | 山本 |
| 第 2 回 | 地域リハビリテーションにおける評価の実践 (フレイルおよび身体機能評価) | 山本 |
| 第 3 回 | 転倒リスクと生活課題分析と支援の考え方 (ICF を用いた課題整理・統合的解釈) | 山本 |
| 第 4 回 | | 山本 |
| 第 5 回 | 高齢者に対する介入事例の理解【個別および集団 (通いの場) での実践例】 | 山本 |
| 第 6 回 | 介護予防プログラムの立案と体験 | 山本 |
| 第 7 回 | 事例に基づく介護予防プログラムの立案 (グループワーク) | 山本 |
| 第 8 回 | 介護予防プログラムのグループ発表および総括 | 山本 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (80%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (発表等) (20%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | ICF の基本概念について事前に復習すること。 高齢者の生活場面を具体的にイメージしておくこと。 |
| 履修条件 | 体験・グループワーク・発表を含むため、原則として全ての授業に出席すること |

| | |
|-----|----------------|
| 教科書 | 特になし。 |
| 参考書 | 特になし。必要時、紹介する。 |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | リスク管理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 | | |
| 科目担当責任者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院 専任講師) | | | | | | |
| | (実務経験:有) 理学療法士として医療および介護現場での勤務経験をもとに、リハビリテーションを行うにあたって必要なリスク管理について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院) | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | リスク感性を育み、臨床実習 2 において患者様・自分自身・周囲の人たちの安全を意識し、行動することができる。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. リスク管理で使用される各種用語を覚える 2. 感染症対策・個人情報対策など実習で実践できる知識を覚える。 3. リハビリテーションを実施する際に必要となる医療情報 (カルテ・薬・検査データ・バイタルなど)、各種疾患で起こりやすい合併症の知識を身につける。 4. グループワーク時に積極的に意見を出し、傾聴し、コミュニケーション力をつけることができる。(リスク感性を育む) |

| 授業計画 | | |
|------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 【総論】リスクとは?リスク管理とは?医療機関を取り巻く現状 | 早井 |
| 第2回 | 【総論】感染症対策・個人情報対策 | 〃 |
| 第3回 | 理学療法におけるリスク管理・医療情報の集め方 (カルテの見方) 理学療法場面で必要なバイタルチェック・臨床検査データ (血液)・薬の副作用 | 〃 |
| 第4回 | 訓練中止の基準確認 | 〃 |
| 第5回 | KYT事例 (グループワーク) | 〃 |
| 第6回 | 疾患別のリスク管理① | 〃 |
| 第7回 | 疾患別のリスク管理② | 〃 |
| 第8回 | 疾患別のリスク管理③・まとめ | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 机上だけでなく、臨床実習において、患者様に対しての配慮が実践できるよう、知識の習得に努めてください。 また臨床においては、患者様・スタッフの先生方とのコミュニケーションが必須となります。 グループワークの際は、お互い協力しながら取り組みましょう。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 指定教科書なし |
| 参考書 | リハビリテーション リスク管理ハンドブック (亀田メディカルセンター) 他、必要時、授業にて紹介します |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 生活環境学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 橋口将大 (長崎リハビリテーション学院) | | | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) 病院・施設にて理学療法士として勤務し、福祉用具の選定や住宅改修の実務・指導を経験する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 橋口将大、早井あかね (長崎リハビリテーション学院) | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 福祉住環境整備の技術・実践と福祉用具の活用方法について理解する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 在宅環境の整備・構築という観点から、障害者や高齢者に対する生活支援の具体策を提示できる。 2. 福祉住環境コーディネーター2級を取得する。 |

| 授業計画 | | |
|------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | OR (シラバスの説明) | 早井 |
| 第2回 | 第1章 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義① | 早井 |
| 第3回 | 第1章 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義② | 早井 |
| 第4回 | 第1章 高齢者や障害者を取り巻く社会状況と福祉住環境コーディネーターの意義③ | 早井 |
| 第5回 | 第2章 健康・障害と高齢者・障害者の状態像① | 早井 |
| 第6回 | 第2章 健康・障害と高齢者・障害者の状態像② | 早井 |
| 第7回 | 第3章 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方① | 早井 |
| 第8回 | 第3章 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方② | 早井 |
| 第9回 | 第4章 福祉住環境整備の共通基本技術① | 橋口 |
| 第10回 | 第4章 福祉住環境整備の共通基本技術② | 橋口 |
| 第11回 | 第4章 福祉住環境整備の共通基本技術③ | 橋口 |
| 第12回 | 第5章 在宅生活における福祉用具の活用① | 橋口 |
| 第13回 | 第5章 在宅生活における福祉用具の活用② | 橋口 |
| 第14回 | 第5章 在宅生活における福祉用具の活用③ | 橋口 |
| 第15回 | まとめ | 橋口 |
| 第16回 | まとめ | 橋口 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 疾患ごとの障害像について復習すること (より対象者の生活環境をイメージしやすい) |
| 履修条件 | 積極的に取り組み、私語は慎み真摯な態度を望む。 |

| | |
|-----|------------------------------------|
| 教科書 | 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 東京商工会議所 |
| 参考書 | |

| | | | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 地域理学療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 本田憲一（長崎リハビリテーション病院 理学療法士） （実務経験：有）急性期・回復期及び生活期にて理学療法士として勤務。現場の経験をもとに地域リハビリテーションについて指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 本田 憲一 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | | | |
| 必修/選択 | 必須 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 （主題） | 地域包括ケアシステム構築においては、専門職との連携は不可欠であり、その重要性は周知のことである。予防・急性期・回復期・生活期・終末期というリハビリテーションの関わりも幅広く、多職種との協働が求められている。連携する事の重要性を理解するとともに、地域リハビリテーションの考え方に沿って、理学療法士としての連携の在り方を身に付け、より良い患者対応への一助とする。 |
| 授業の到達目標 | 地域リハビリテーションの考え方を学び、地域包括ケアシステム構築に必要な連携を理解することにより、①理学療法士として多職種との連携を理解し、適切に対応できる。②地域での理学療法士の活動を理解し、多職種との協働につとめることができる。 |

| 授業計画 | | |
|------|--|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 地域リハビリテーション、介護保険制度について理解する ICFについて学び、自己（他者）紹介ができる | 本田 |
| 第2回 | 社会情勢と様々な制度について知る | 本田 |
| 第3回 | 地域包括ケアシステム、総合事業（地域支援事業）、災害リハビリテーションについて知る | 本田 |
| 第4回 | 自身のコミュニケーションについて考え、様々な場面での伝わり方を知る | 本田 |
| 第5回 | 退院後のリハビリテーション（訪問サービスでの連携） | 本田 |
| 第6回 | 退院後のリハビリテーション（施設との連携） | 本田 |
| 第7回 | リハビリテーション実施計画書を作成してみる | 本田 |
| 第8回 | 地域リハビリテーションと多職種連携 | 本田 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(学習への姿勢) (30%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 授業時間に次回までにやっておく課題を提示した時は、遂行すること。予習・復習を行うこと。 |
| 履修条件 | 授業中の質問には随時対応するので、様子を見つつ遠慮なく。授業の合間や終了後に質問を受けつける。 |

| | |
|-----|------------------------------------|
| 教科書 | シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト（南江堂） |
| 参考書 | 必要時、講義にて紹介 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|-----|
| 科目名 | 臨床実習 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに臨床実習前後の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 理学療法学科専任教員 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 2 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 実習 | 単位数 | 6 |
| | | | | 時間数 | 240 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 診療録等からの間接的情報収集や、対象者への直接的情報収集(検査・測定等)を通して、対象者の状態等に関する評価を体験する。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。 |
| 授業の到達目標 | 1) 理学療法の流れを理解する 2) リスク管理や理学療法評価を、指導者の直接監視下で実践する 3) 通所・訪問リハにおける理学療法士の役割を理解し、理学療法を一部経験する |

| 授業計画 | | |
|--|---|---------------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 【通所・訪問 リハ実習】 9月7日 ～9月11日 (5日間) | 学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。 〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前 OSCE (客観的臨床能力試験) 〈臨床実習〉 ・ 通所・訪問リハ施設において、実習指導者の指導・監督の下、理学療法を見学・一部経験する ・ 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、情報収集や課題解決に向けた仮説を立てる過程を学習する | 専任教員 実習指導者 |
| 【評価実習】 11月16日 ～12月18日 (5週間) | 〈事後学習〉 実習の振り返り | |

| | | | |
|-------------------|--|---|---|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習前評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習地評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習後評価 |
| (評価の基準) | <ul style="list-style-type: none"> 実技試験 筆記試験 (20 %) | (60 %) | <ul style="list-style-type: none"> デイリーノート (20 %) |
| | 臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。 | | |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。 | | |
| 履修条件 | | | |

| | |
|-----|--------------------|
| 教科書 | 臨床実習で必要となるすべてのテキスト |
| 参考書 | |

令和 8 年度 (2026 年度)

シラバス (授業計画)

理学療法学科 3 年次

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | ホスピタリティ論3 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 田中 美吉子 (所属 合同会社ヒューマンナガサキ) | | | | |
| | (実務経験：有) 多くの企業や学校で接遇講座やマナーレッスンの講義を務め、長年の職務経験を活かして指導にあたる | | | | |
| 科目担当者 | 田中 美吉子 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | ①医療のあらゆる場面で求められるビジネスマナーと対人コミュニケーションについて演習を取り入れながら実践的に学習する。 ②就職活動時の基本的マナーを演習する。 |
| 授業の到達目標 | ・ 社会人としてのビジネスマナーとコミュニケーション力を養う。 ・ 就職活動に必要なマナーを心得る。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | ビジネスマナー、訪問のマナー、名刺交換 | 田中 |
| 第2回 | 食事のマナー (お箸や食器の遣い方、お茶のいただき方など) | 田中 |
| 第3回 | アサーティブコミュニケーション (自他尊重のコミュニケーション) | 田中 |
| 第4回 | アサーションを活用した職場のコミュニケーションと演習 | 田中 |
| 第5回 | 就職活動における心構えとマナーについて | 田中 |
| 第6回 | 自己分析、自己PR、志望動機など | 田中 |
| 第7回 | ホスピタリティ論の総復習、弱点克服 | 田中 |
| 第8回 | 模擬面接 (口頭試験) | 田中 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (60 %) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(学習態度) (40 %) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 授業への取組姿勢、態度、身だしなみ、他者との関わり方すべてを評価対象とします。接遇マナーは習慣です。授業で学んだことを実生活でも常に意識しましょう。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|-----------------|
| 教科書 | 配布資料 |
| 参考書 | パワーポイントをお借りします。 |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 臨床薬理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 河村 綾子 (きらら薬局 代表 薬剤師) | | | | | | |
| | (実務経験：有) 保険調剤薬局に20年薬剤師として勤務実績があり、在宅医療にも積極的に関わっている実経験をもとに、理学療法士が必要とする薬理学及び臨床薬理学について指導する | | | | | | |
| 科目担当者 | 河村 綾子 | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 薬理についての知識を身につけ、臨床における作用・副作用等を理解し、専門職として高品質なリハを提供できる。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の基礎を理解する 2. 臨床での薬の使い方を理解する 3. 疾患ごとの薬物療法を学ぶ |

| 授業計画 | | |
|------|---------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 薬理学の知識① | 河村 |
| 第2回 | 薬理学の知識② | 河村 |
| 第3回 | 薬理学の知識③ | 河村 |
| 第4回 | 臨床薬理学 (薬の使い方) | 河村 |
| 第5回 | 薬物各論① | 河村 |
| 第6回 | 薬物各論② | 河村 |
| 第7回 | 薬物各論③ | 河村 |
| 第8回 | まとめ | 河村 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 必修科目であるので、必ず出席すること。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------------|
| 教科書 | リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学 南江堂【河村】 |
| 参考書 | 配布資料あり |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 健康増進論 | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 早井 あかね (長崎リハビリテーション学院) (実務経験：有) 理学療法士として病院および介護領域での勤務経験をもとに健康増進について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 早井 あかね | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | | | 時間数 | 15 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 介護予防、健康増進領域における理学療法士の活動実態を学び、予防理学療法に通じる疾病予防や健康管理(運動・栄養)のあり方について理解を深める。また、老年期障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と予防方法についても学習する。 |
| 授業の到達目標 | 1. 健康の定義や概念、健康寿命について説明できる。 2. 中高年期に抱える健康面の課題、代表的な老年症候群(認知症、フレイル、サルコペニアなど)や低栄養の病態とその対処方法について説明できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | オリエンテーション(シラバスの説明)、健康増進と理学療法 | 早井 |
| 第2回 | 中高年期における生活習慣病の予防 | 〃 |
| 第3回 | 中高年期における骨粗鬆症、骨折予防 | 〃 |
| 第4回 | 高齢期における転倒・骨折の実態と対処法 | 〃 |
| 第5回 | 健康長寿の実現に向けた取り組み①(サルコペニアの病態理解と予防戦略) | 〃 |
| 第6回 | 健康長寿の実現に向けた取り組み②(フレイル・認知症の病態理解と予防戦略) | 〃 |
| 第7回 | 身体活動向上のための評価と介入プログラムの立案 | 〃 |
| 第8回 | まとめ(授業の振り返り) | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他() (100%) (%) (%) (%) (%) (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 準備学習として、関連科目の基本事項を復習しておくこと。 グループ演習では、各自が主体的に参加し、お互い協力しながら作業を進めること。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 毎回資料を配布する。 |
| 参考書 | シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 南江堂 フレイルの予防とリハビリテーション 医歯薬出版 サルコペニアと運動—エビデンスと実践— 医歯薬出版 |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 理学療法研究法 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="radio"/> 有・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床研究の経験をもとに研究指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法に関する研究は、科学的な根拠が求められる基礎から応用まで幅広い。理学療法士が研究することの意義を理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。 |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究デザインや基本的な研究の手順を説明できる。 3. 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 研究の意義・目的 | 小谷 |
| 第2回 | 根拠に基づく医療 (EBM)、根拠に基づく理学療法 (EBPT) | 小谷 |
| 第3回 | 研究デザインの基礎知識 | 小谷 |
| 第4回 | 研究計画の立案・進め方と研究倫理 | 小谷 |
| 第5回 | 発表のしかた、論文の書き方 | 小谷 |
| 第6回 | 医療統計 | 小谷 |
| 第7回 | 研究データの解析 | 小谷 |
| 第8回 | まとめ | 小谷 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (100%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 自分の興味のあることは何でも研究材料になります。普段から素朴な疑問を大切にしましょう。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | 毎回講義資料を配布する。 健康・スポーツ科学のためのやさしい統計学 杏林書院 |
| 参考書 | 標準理学療法学(専門分野) 理学療法研究法 第3版 医学書院 |

| | | | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|-----|----|
| 科目名 | 理学療法管理学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 | | |
| 科目担当責任者 | 西村 健 (宮崎病院 総合リハビリテーション科 理学療法士) | | | | | | |
| | (実務経験:有) 病院内での医療・介護部門においてリハビリテーション部門管理者として勤務。実際の管理業務を通して経験した、現場での医療職として、リハビリテーション職として必要な事項を中心について指導する。 | | | | | | |
| 科目担当者 | 西村 健 山下 潤一郎 (長崎記念病院 理学療法士) | | | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 一般的に身の回りの事項を題材に管理に関する基礎知識を学習して、更に理学療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め、現場で活動する医療組織人としての適性を高める事を目的とする。人事管理や業務管理、管理者に求められる能力とリーダーシップ、チームの一員として求められる能力とフォロワーシップ、自己管理と能力開発、学生指導などを学び、障害者や高齢者など対象者の抱える問題を適切に解決できる、部門管理のあり方について理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | 理学療法管理の意義と目的について理解する チーム医療と理学療法士の役割について理解する 医療・保健・福祉を取り巻く諸制度ならびに職業倫理について理解する |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 管理とマネジメントの概念 | 西村 |
| 第2回 | 病院組織の特性と理学療法管理の視座 | 西村 |
| 第3回 | 理学療法管理学とは | 西村 |
| 第4回 | 理学療法士の職業倫理 | 西村 |
| 第5回 | 組織運営とマネジメント | 西村 |
| 第6回 | 理学療法士の職場倫理 | 西村 |
| 第7回 | 理学療法業務のマネジメント | 西村 |
| 第8回 | 教育・研究のマネジメント | 西村 |
| 第9回 | 医療・保健・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント① | 西村 |
| 第10回 | 医療・保健・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント② | 西村 |
| 第11回 | リスクマネジメント① | 西村 |
| 第12回 | リスクマネジメント② | 西村 |
| 第13回 | 生活期を支援する理学療法マネジメント | 西村 |
| 第14回 | チーム医療の重要性、多職種連携① | 西村 |
| 第15回 | チーム医療の重要性、多職種連携② | 西村 |
| 第16回 | 理学療法士の生涯教育システム | 山下 |

| | |
|--------------------|---|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 (60%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 実習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(授業内) (40%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 教科図書の目次を参考に学習内容の全体像を概観しておくこと |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|----------------------------|
| 教科書 | 橋元隆 編集代表「理学療法管理学・第2版」医歯薬出版 |
| 参考書 | 授業内で提示する |

| | | | | | |
|---------|---|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 臨床推論演習 2 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| | (実務経験: (有)・無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに臨床推論に必要な基礎知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 小谷 泉 (長崎リハビリテーション学院) | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 (主題) | 臨床推論の流れについて理解し、模擬患者を通して体験する |
| 授業の到達目標 | 1) 臨床推論の流れについて説明できる。 2) 患者情報をもとにゴール設定ができる。 3) 患者情報をもとに治療プログラムの立案ができる |

| 授業計画 | | |
|-------|---------------------------|-------|
| 回 数 | 内 容 | 担 当 |
| 第 1 回 | 臨床推論について | 中尾・小谷 |
| 第 2 回 | グループワーク① (ゴール設定) | 中尾・小谷 |
| 第 3 回 | グループワーク② (各種ガイドライン・文献の検索) | 中尾・小谷 |
| 第 4 回 | グループワーク③ (治療プログラム立案) | 中尾・小谷 |
| 第 5 回 | グループワーク④ (治療プログラム立案) | 中尾・小谷 |
| 第 6 回 | グループワーク⑤ (発表準備) | 中尾・小谷 |
| 第 7 回 | グループ発表 | 中尾・小谷 |
| 第 8 回 | 振り返り | 中尾・小谷 |

| | |
|-------------------|--|
| 成績評価の方法 | <input type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加状況 ・ 発表 |
| (評価の基準) | (%) (%) (%) (%) (20%) (80%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | グループワークで実施します。積極的に参加し、実りあるものとしてください。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|------------------------|
| 教科書 | 評価学や各理学療法学の講義で使用するテキスト |
| 参考書 | |

| | | | | | |
|---------|---|-------|-------|-----|----|
| 科目名 | 疼痛理学療法学 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| | （実務経験：有）整形外科にて理学療法士として勤務。現場の経験をもとに疼痛理学療法について指導する。 | | | | |
| 科目担当者 | 福田 健一（長崎リハビリテーション学院） | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義・実技 | 単位数 | 1 |
| | | 時間数 | 15 | | |

| | |
|---------------|--|
| 授業の概要 （主題） | <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法場面で直面する疼痛について正しく評価し、問題点に対して適切な治療の立案を行えるようになる。 ・国家試験で問われるレベルは最低限理解する。 |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・有痛性運動器障害について理解する。 ・疼痛における基本的な知識・評価について理解する。 ・具体的アプローチ(運動療法・物理療法)について理解する。 |

| 授業計画 | | |
|------|----------------------|-----|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 第1回 | 急性痛・慢性痛について | 福田 |
| 第2回 | 疼痛の評価・治療について | 〃 |
| 第3回 | 筋膜マニピュレーションについて | 〃 |
| 第4回 | 腰痛リハビリテーションについて | 〃 |
| 第5回 | グループワーク(資料作成) | 〃 |
| 第6回 | グループワーク(資料作成) | 〃 |
| 第7回 | グループワーク発表・総括 | 〃 |
| 第8回 | 国家試験問題の確認(有痛性疾患について) | 〃 |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 （評価の基準） | <input checked="" type="checkbox"/> 定期試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 実習評価 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> その他（ ） （ 60%） （ %） （ %） （ %） （ 40%） （ %） |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 遅刻・欠席は勿論の事、ワークの取り組みの悪さや課題内容の不備については減点対象となりますので、責任感を持った積極的な講義への参加を期待します。 |
| 履修条件 | 私語は慎み、真摯な態度で講義に取り組むように |

| | |
|-----|---|
| 教科書 | ・必要時、資料を配布します。 |
| 参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやタブレットなど通信機器の使用あり。 ・ワーク時に図書館の利用も認める。 ・各自、疼痛や評価・治療系テキストを持参してください。 |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|-----|
| 科目名 | 総合セミナー | 開講年度 | 2026 | 期 | 後期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 夕子（長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師） | | | | |
| | （実務経験：☑有・☐無）病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに理学療法士国家資格取得に必要な知識について講義する。 | | | | |
| 科目担当者 | 橋口将大、小谷泉、町田勝広、福田健一、早井あかね | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 講義 | 単位数 | 12 |
| | | | | 時間数 | 180 |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 理学療法士国家資格取得に必要な専門基礎科目・専門科目の知識を統合し、理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | 理学療法士国家試験受験に値する力をつける。 |

| 回数 | 内 容 | 担当 | |
|------------|----------------|-------------|----------------------------------|
| 90回 | 解剖学 | 内部障害と臨床医学 | 中尾 橋口 小谷 町田 福田 早井 |
| | 生理学 | がん関連障害と臨床医学 | |
| | 運動学 | 老年期障害と臨床医学 | |
| | 人間発達学 | 保健医療福祉 | |
| | 医学概論 | リハビリテーション概論 | |
| | 病理学概論 | 基礎理学療法学 | |
| | 臨床医学総論 | 理学療法管理学 | |
| | リハビリテーション医学 | 理学療法評価学 | |
| | 臨床心理学 | 理学療法治療学 | |
| | 精神障害と臨床医学 | 地域理学療法学 | |
| | 骨関節障害と臨床医学 | 臨床実習 | |
| | 慢性疼痛と臨床医学 | | |
| | 中枢神経の障害と臨床医学 | | |
| | 末梢神経・筋の障害と臨床医学 | | |
| 小児の障害と臨床医学 | | | |

| | |
|--------------------|--|
| 成績評価の方法 (評価の基準) | ☑定期試験 (100%) ☐実技試験 (%) ☐実習評価 (%) ☐小テスト (%) ☐レポート (%) ☐その他() (%) |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 課題に対して個別学習とグループ学習を組み合わせ実施します。個々の積極的な学習への取り組みが重要となりますので、意識して取り組んでください。また、グループ学習において知識を表出することは理解を深め、知識の定着に有用です。積極的な取り組みを期待します。 |
| 履修条件 | |

| | |
|-----|--------------------------------------|
| 教科書 | 随時、必要な教科書を提示します |
| 参考書 | クエスチョン・バンク（共通問題） クエスチョン・バンク（専門問題） |

| | | | | | |
|---------|--|-------|------|-----|----|
| 科目名 | 臨床実習 3 | 開講年度 | 2026 | 期 | 前期 |
| 科目担当責任者 | 中尾 タ子 (長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 専任講師) | | | | |
| | (実務経験: <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無) 病院にて理学療法士として勤務。臨床現場の経験をもとに臨床実習前後の指導にあたる。 | | | | |
| 科目担当者 | 理学療法学科専任教員 | | | | |
| 学 科 | 理学療法学科 | 学 年 | 3 | | |
| 必修/選択 | 必修 | 授業の形態 | 実習 | 単位数 | 17 |
| | | 時間数 | 680 | | |

| | |
|---------------|---|
| 授業の概要 (主題) | 様々な疾患・状態の対象者に対し、対象者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定等を学ぶ。また、診療録等への記載方法やカンファレンスへの参加など、さまざまな理学療法業務についても理解を深める。 |
| 授業の到達目標 | 1) 理学療法士としてとるべき行動や態度を養い、チームの一員として自覚のある言動をとる 2) リスク管理・理学療法評価・理学療法治療技術、指導者の直接監視下で実践する |

| 授業計画 | | |
|----------------------------------|---|---------------|
| 回数 | 内 容 | 担 当 |
| 〈Ⅰ期〉 5月11日 ~7月3日 (8週間) | 学内における事前学習、実習施設における臨床実習、学内における事後学習を通して学習する。 〈事前学習〉 感染症対策等医療安全管理 個人情報保護 実習前 OSCE (客観的臨床能力試験) | 専任教員 実習指導者 |
| 〈Ⅱ期〉 7月21日 ~9月11日 (8週間) | 〈臨床実習〉 実習施設において実習指導者の指導・監督の下、情報収集や課題解決に向けた仮説を立てる過程を学習する 〈事後学習〉 実習の振り返り 実習後 OSCE (客観的臨床能力試験) | |
| ※ 臨床実習前後の評価を含む | | |

| | | | |
|-------------------|--|---|--|
| 成績評価の方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習前評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習地評価 | <input checked="" type="checkbox"/> 臨床実習後評価 |
| (評価の基準) | <ul style="list-style-type: none"> 実技試験 筆記試験 (20 %) | (60 %) | <ul style="list-style-type: none"> 実技試験 筆記試験 (20 %) |
| | Ⅰ期・Ⅱ期終了後に臨床実習前後の評価および臨床実習地評価の結果を踏まえて学内会議において総合的に評価する。 | | |
| 準備学習 学習へのアドバイス | 学内での実習オリエンテーションで事前学習を行い、医療従事者としての自覚をもち、実習に臨んでください。 | | |
| 履修条件 | | | |

| | |
|-----|--------------------|
| 教科書 | 臨床実習で必要となるすべてのテキスト |
| 参考書 | |